

3. 結婚や子育て

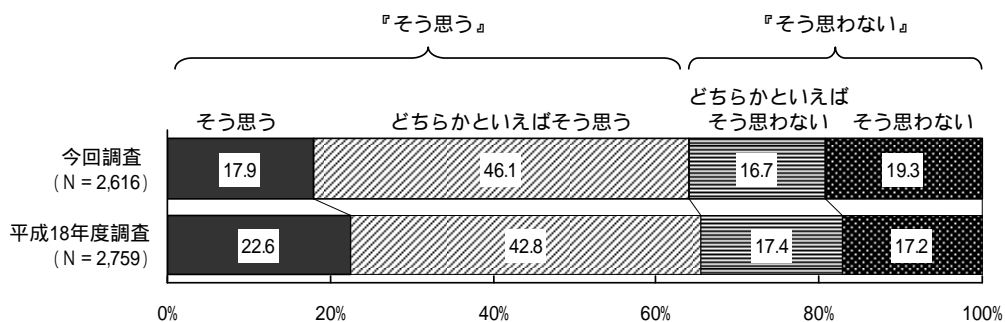
1

結婚や離婚についての考え方

(1) 女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚する方がよい

肯定的な考え方が6割以上

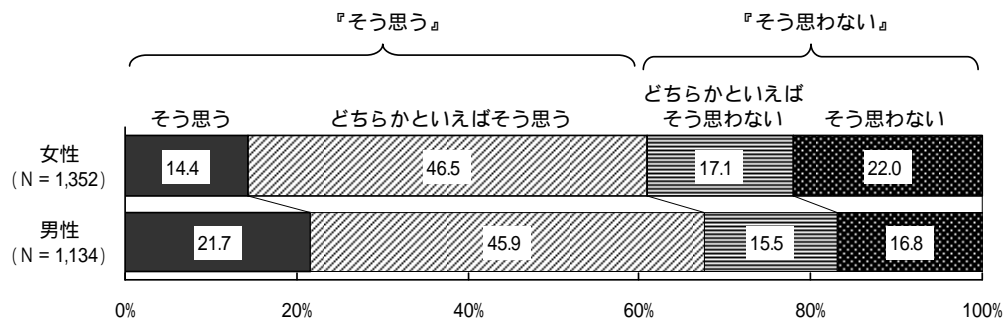
「女性の幸福は結婚にあるのだから、女性は結婚する方がよい」という考え方については、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)が64.0%で、平成18年度調査(65.4%)と比較して1.4ポイント低くなっている。



【性別】

男性の方が肯定的な考え方の割合が高い

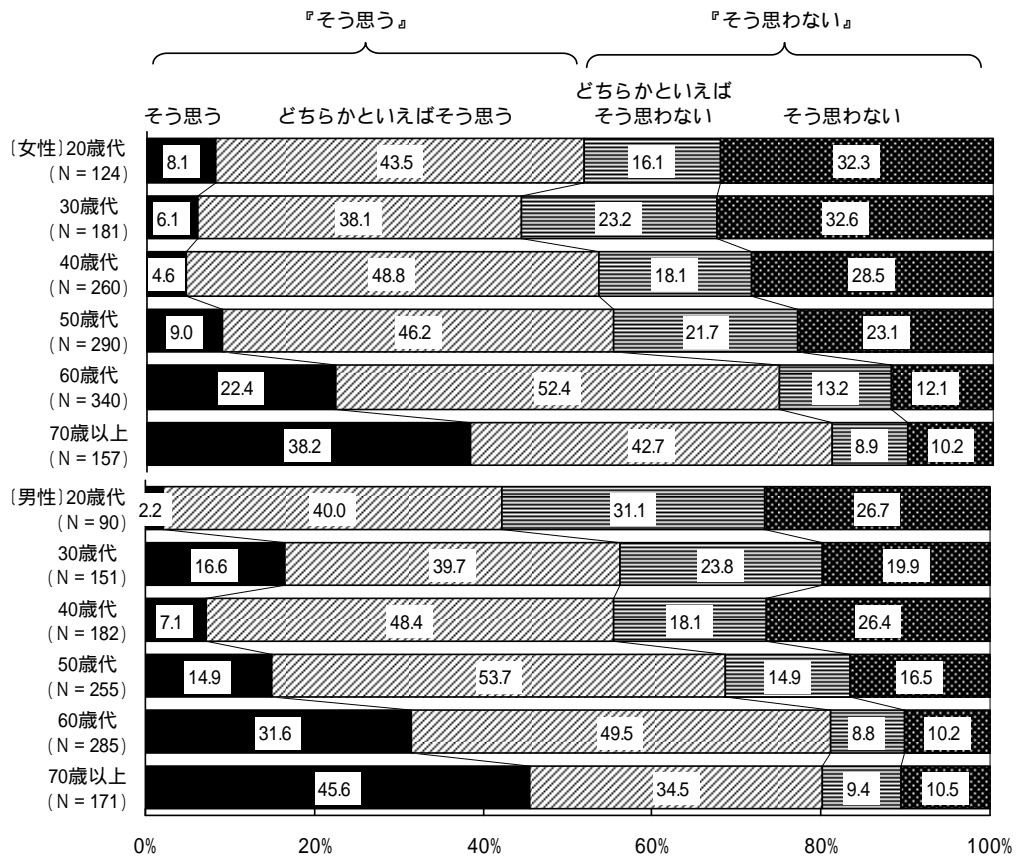
『そう思う』は、男性が67.6%で、女性(60.9%)を6.7ポイント上回っている。



【性・年代別】

女性では30歳代、男性では20歳代で肯定的な考え方の割合が低くなる

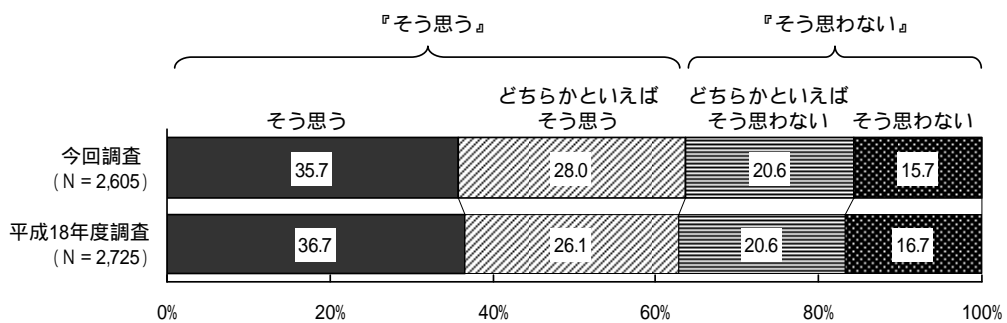
『そう思う』は、女性では30歳代で44.2%、男性では20歳代で42.2%と低い割合になっている。



(2) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

肯定的な考え方が6割以上

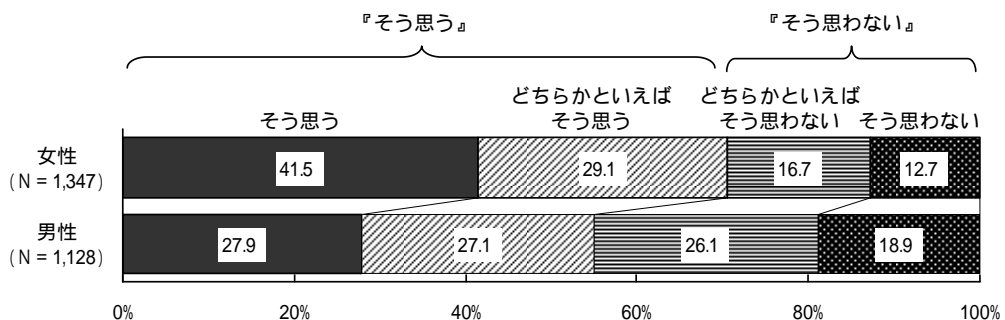
「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考え方については、『そう思う』が63.7%で、平成18年度調査(62.8%)と比較すると0.9ポイント増えている。



【性別】

女性の方が肯定的な考え方の割合が高い

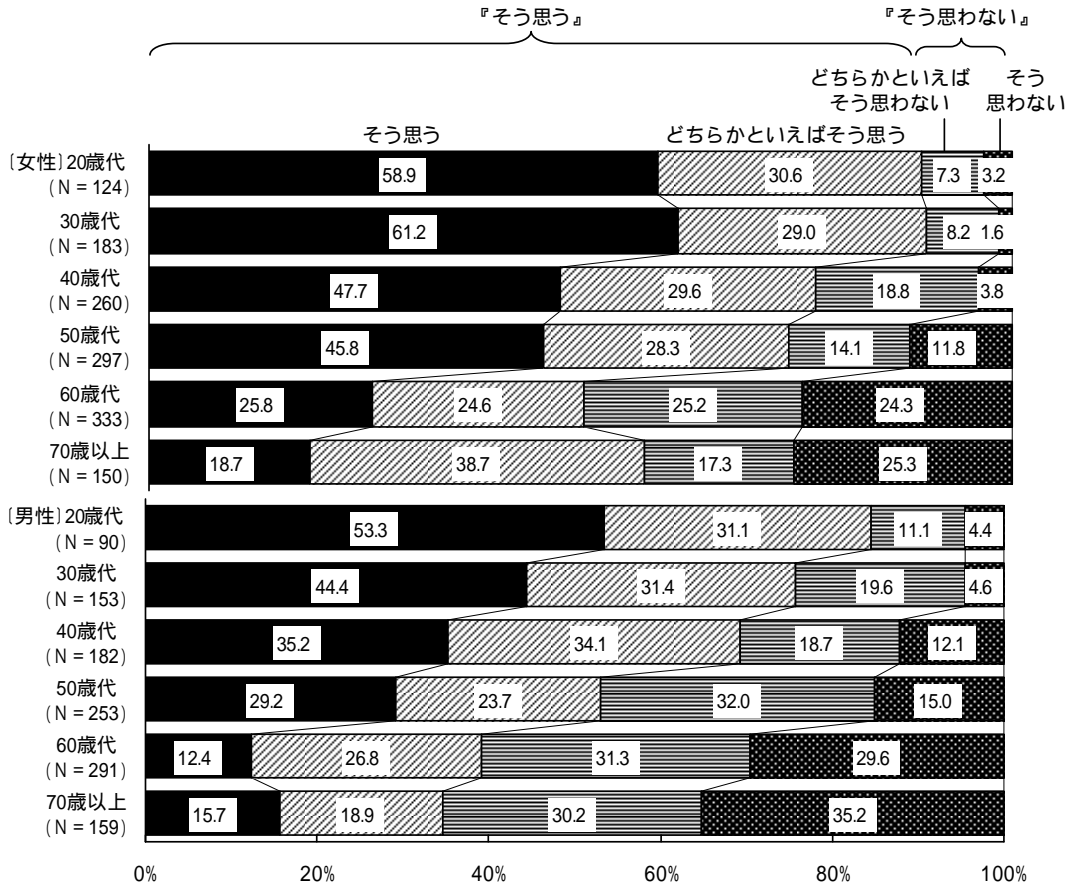
『そう思う』は、女性が70.6%で、男性(55.0%)を15.6ポイント上回っている。



【性・年代別】

年代が高くなるほど肯定的な考え方の割合が低くなる

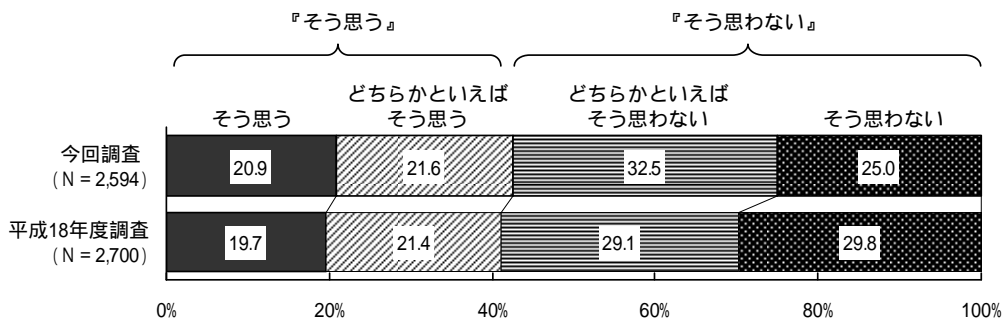
『そう思う』は、女性の20～30歳代、男性の20歳代で高く8割を超えているが、年代が高くなるほど割合が低下する傾向となっている。



(3) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方は約4割

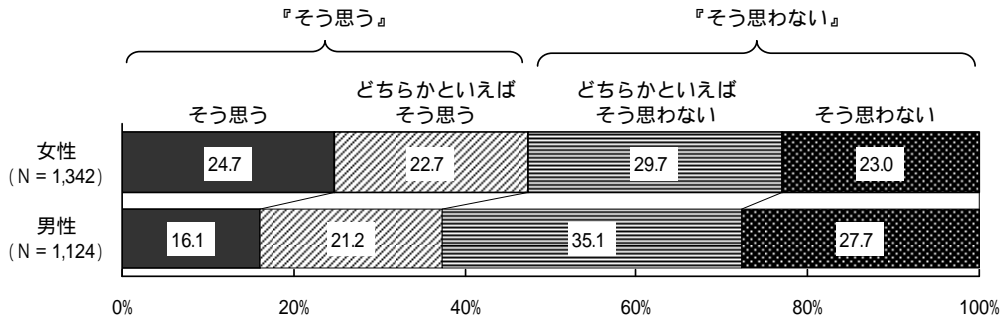
「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方については、『そう思う』が42.5%で、平成18年度調査(41.1%)と比較すると1.4ポイント増えている。『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計)は57.5%となっている。



【性別】

男性の方が「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方の割合が低い

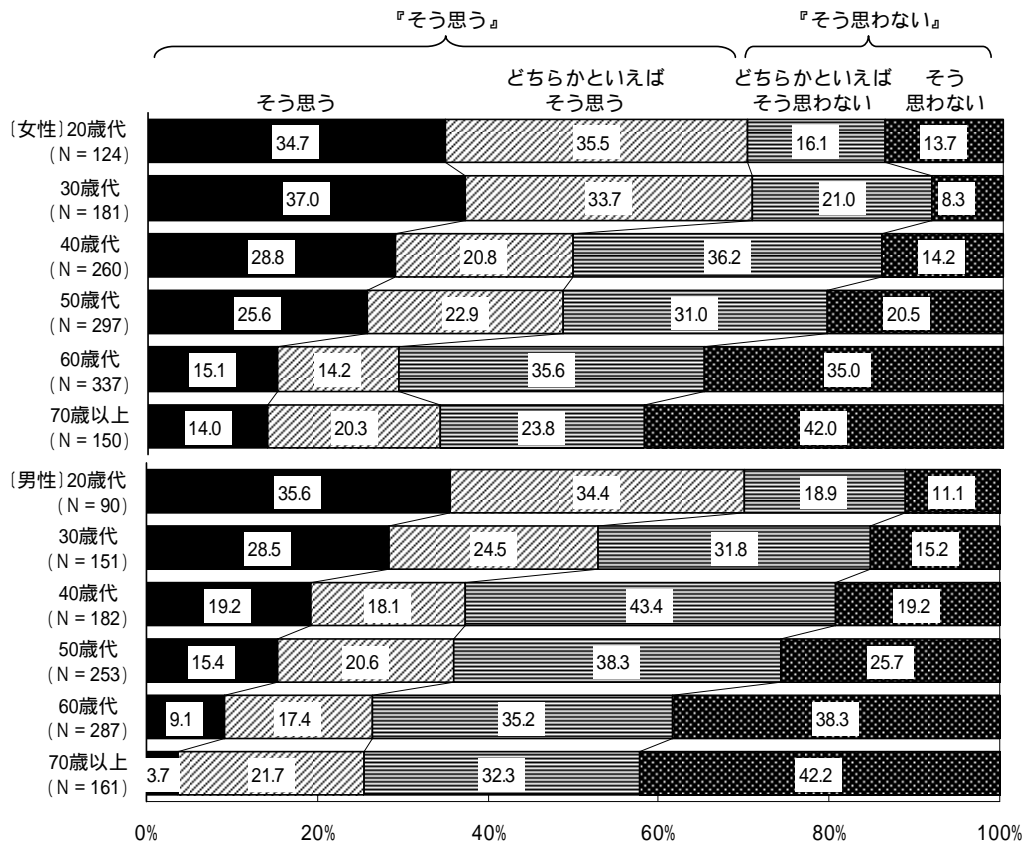
男女ともに『そう思わない』が過半数を占めているが、男性が62.8%で、女性（52.7%）を10.1ポイント上回っている。



【性・年代別】

「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方について、20歳代の男女の7割が肯定的

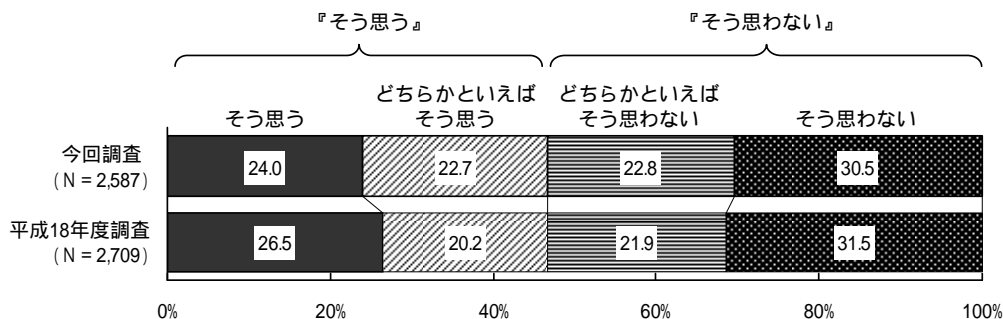
20歳代では、男女とも7割以上が『そう思う』としているが、30～50歳代では、男女間の意識に10ポイント以上の差がある。



(4) 夫婦別姓を制度として認めてもよい

否定的な考え方が半数以上

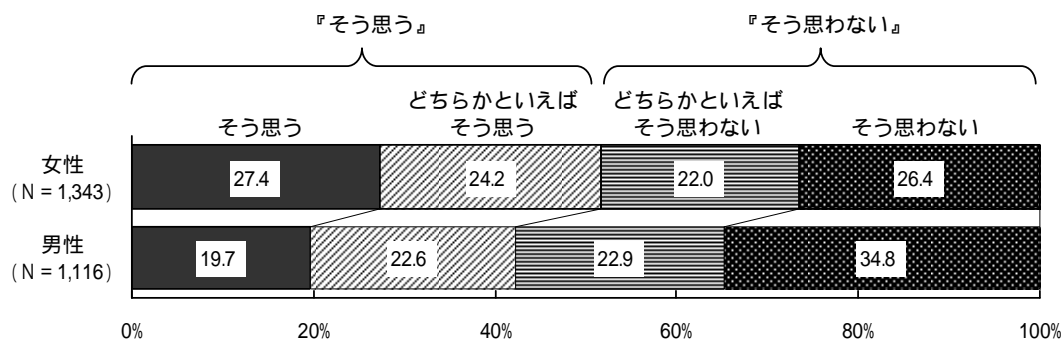
「夫婦別姓を制度として認めてもよい」という考え方については、『そう思う』が46.7%で、『そう思わない』が53.2%と過半数を占めており、平成18年度調査とほぼ同じ割合となっている。



【性別】

女性は肯定的、男性は否定的な考え方が過半数を占める

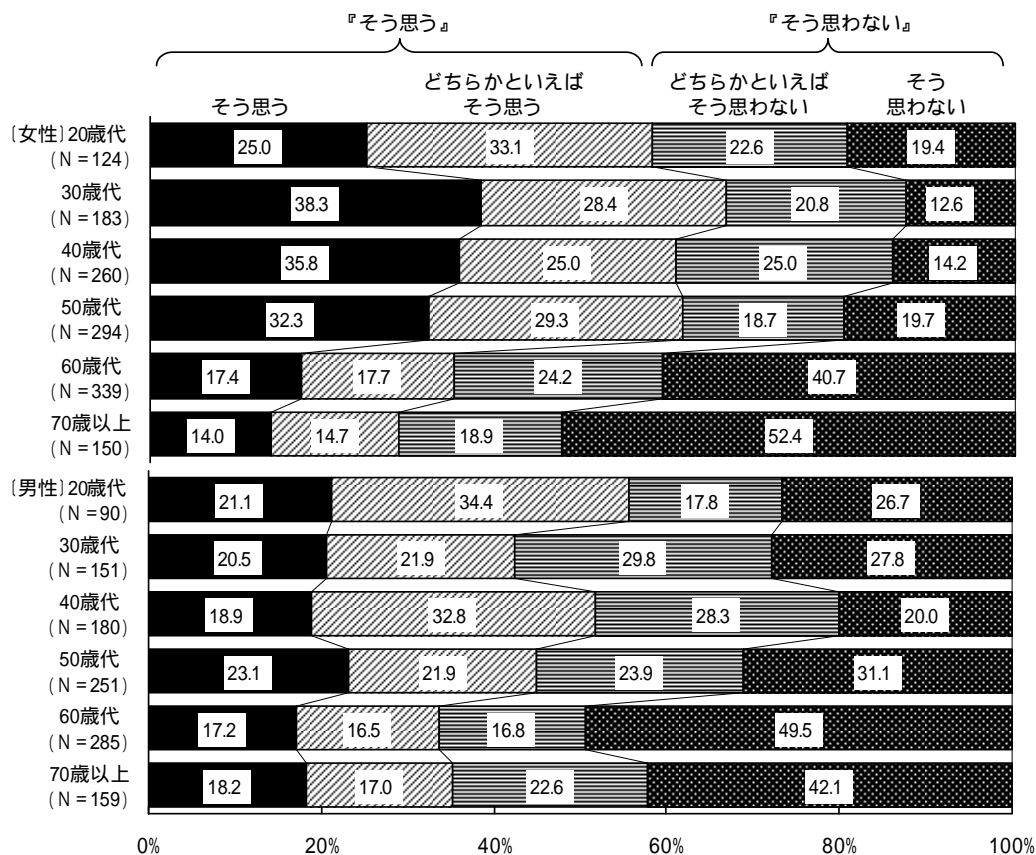
女性は『そう思う』が51.6%で、『そう思わない』(48.4%)を上回り、男性では『そう思わない』(57.7%)が『そう思う』(42.3%)を上回っている。



【性・年代別】

男女とも60歳以上で否定的な意見が6割を超える

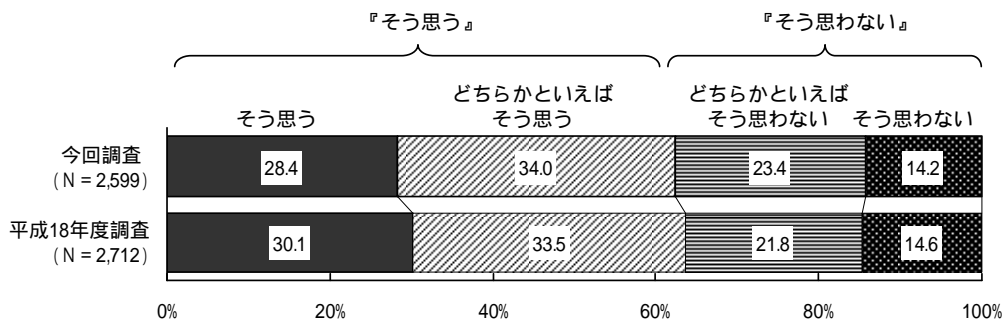
女性の20~50歳代、男性の20歳代、40歳代では、『そう思う』が過半数を占め、それ以外の性・年代では『そう思わない』が過半数を占める。男女とも60歳以上では、『そう思わない』が6割を超える。



(5) 結婚しても夫婦間の愛情がなくなれば、離婚するのもやむを得ない

肯定的な考え方が6割以上

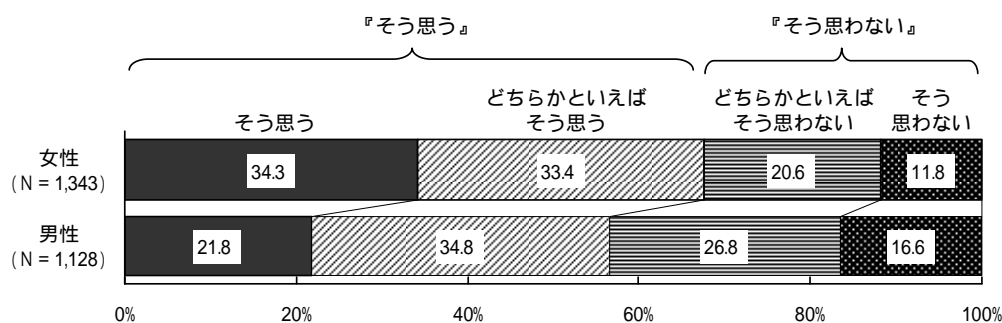
「結婚しても夫婦間の愛情がなくなれば、離婚するのもやむを得ない」という考え方について、『そう思う』は62.4%で、平成18年度調査(63.6%)と比較すると1.2ポイントの低下となっている。



【性別】

女性の方が肯定的考え方の割合が高い

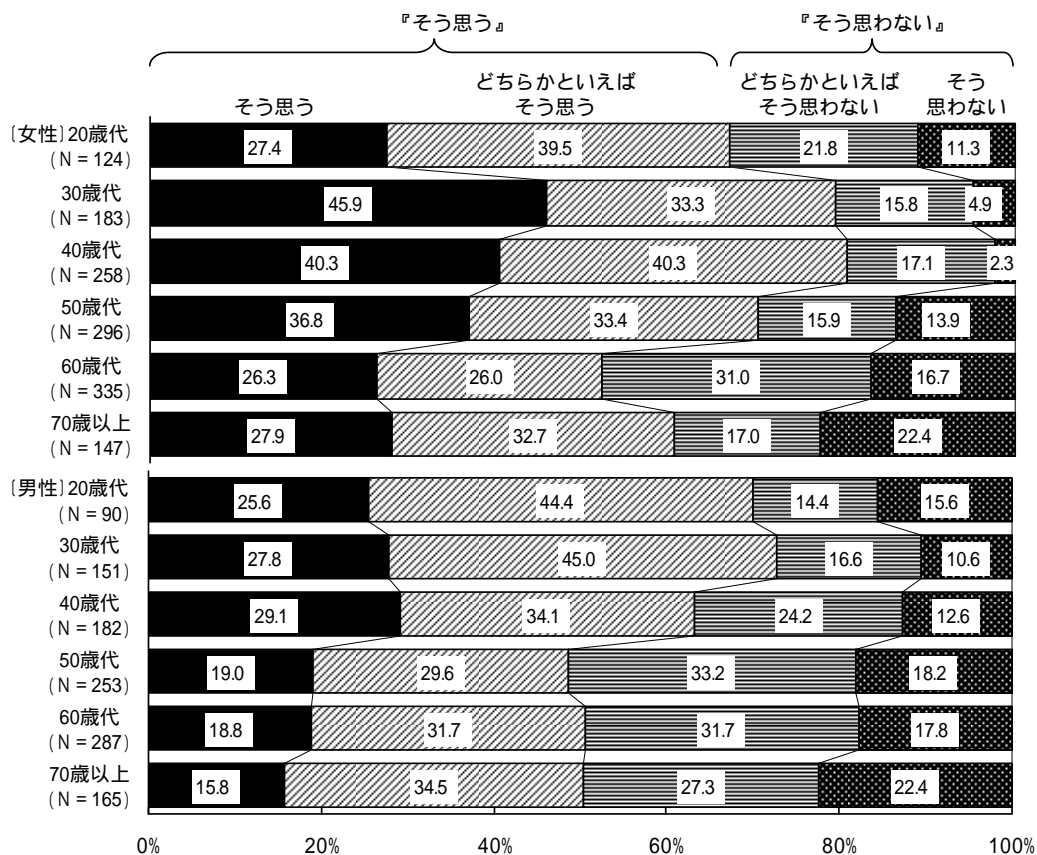
『そう思う』は女性が67.7%で、男性(56.6%)を11.1ポイント上回っている。



【性・年代別】

女性の30～40歳代では肯定的な考え方が約8割を超える

『そう思う』は、40歳代では女性80.6%、男性63.2%で17.4ポイント、50歳代では女性70.2%、男性48.6%で21.6ポイントそれぞれ女性の方が上回っている。



2

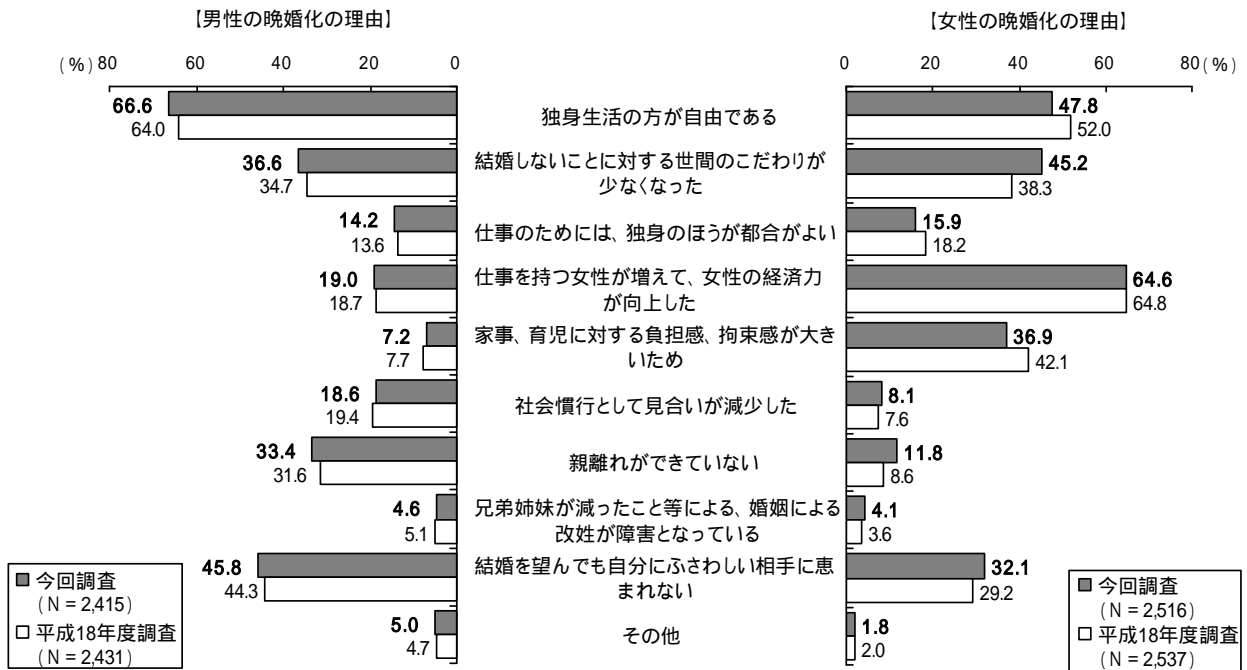
晩婚化の理由

(あてはまるものを3つまで選択)

男性の晩婚化の理由は「独身生活の方が自由である」、女性は「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した」が多い

男性の晩婚化の理由は、「独身生活の方が自由である」が66.6%と最も多く、次いで「結婚を望んでも自分にふさわしい相手に恵まれない」(45.8%)、「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった」(36.6%)の順となっている。

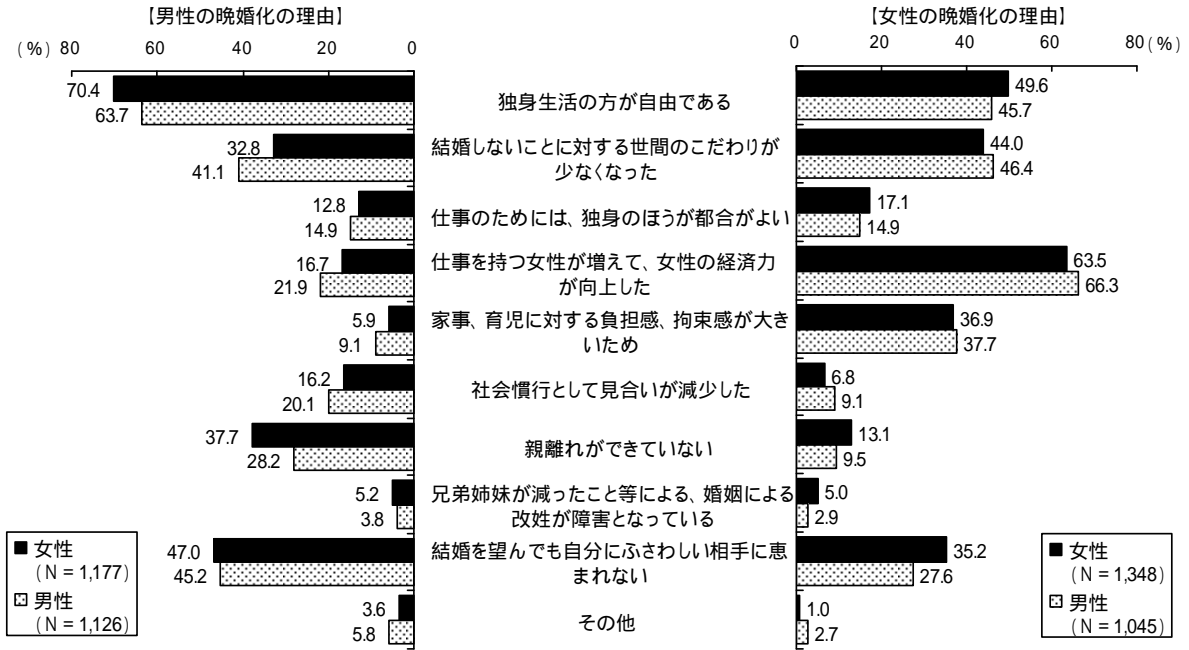
女性の晩婚化の理由は、「仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した」が64.6%で最も多く、次いで「独身生活の方が自由である」(47.8%)、「結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった」(45.2%)の順となっている。



【性別】

性別による傾向に大きな差はみられない

男性の晩婚化の理由、女性の晩婚化の理由とも、性別による傾向に大きな差はみられない。



【性・年代別】

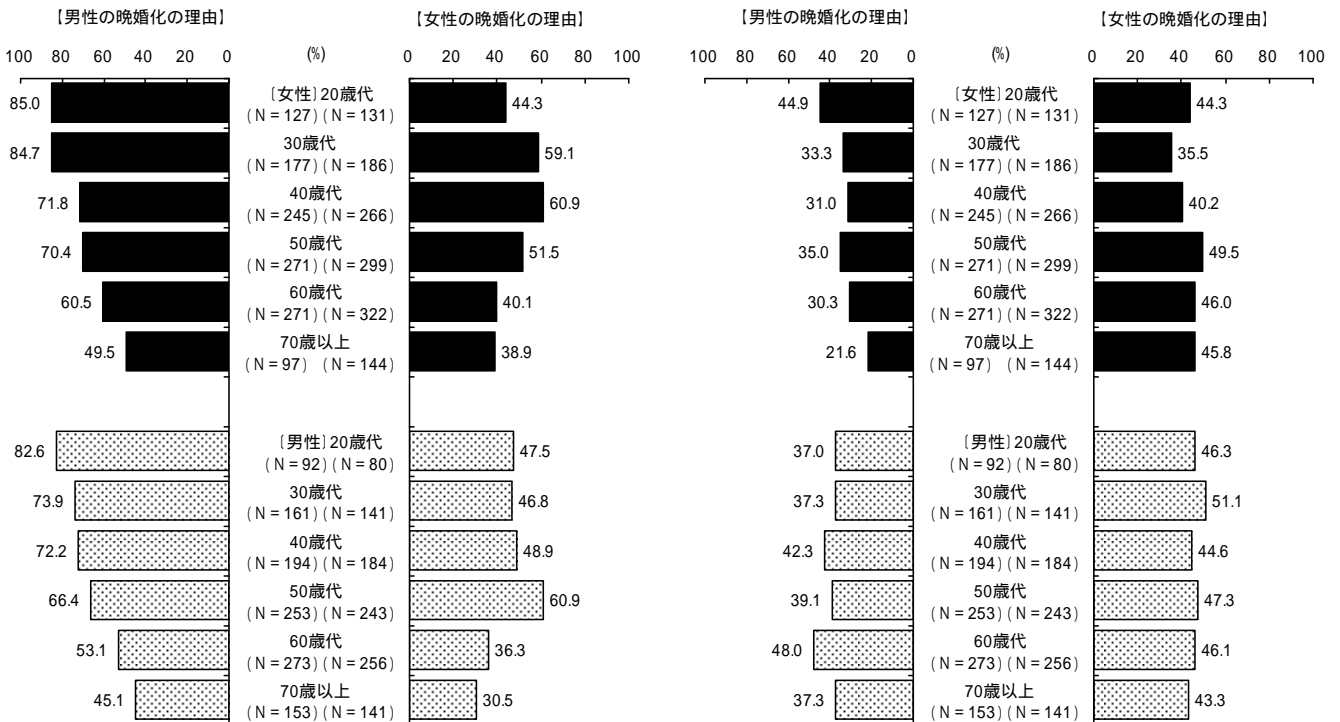
「独身生活のほうが自由である」は、男女とも20～30歳代で高い

女性の晩婚化の理由としては、女性の20歳代で、「家事、育児に対する負担感、拘束感が大きい」との割合が若干高くなっている。

男性の晩婚化の理由としては、男女とも「独身生活のほうが自由である」が20～30歳代で高くなっている。

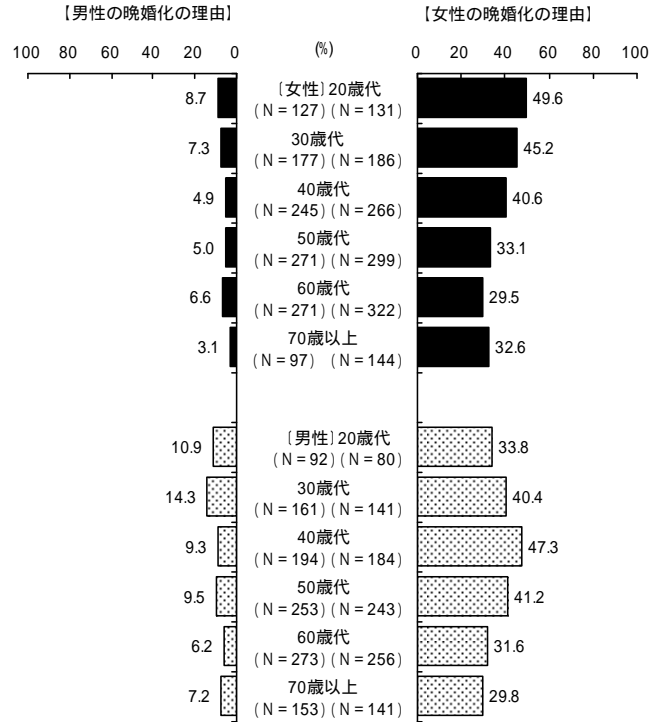
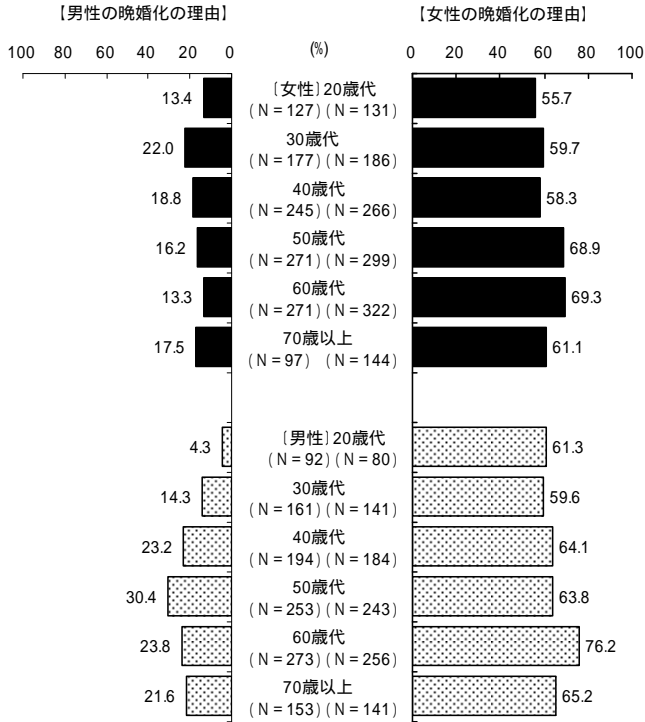
独身生活のほうが自由である

結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなった



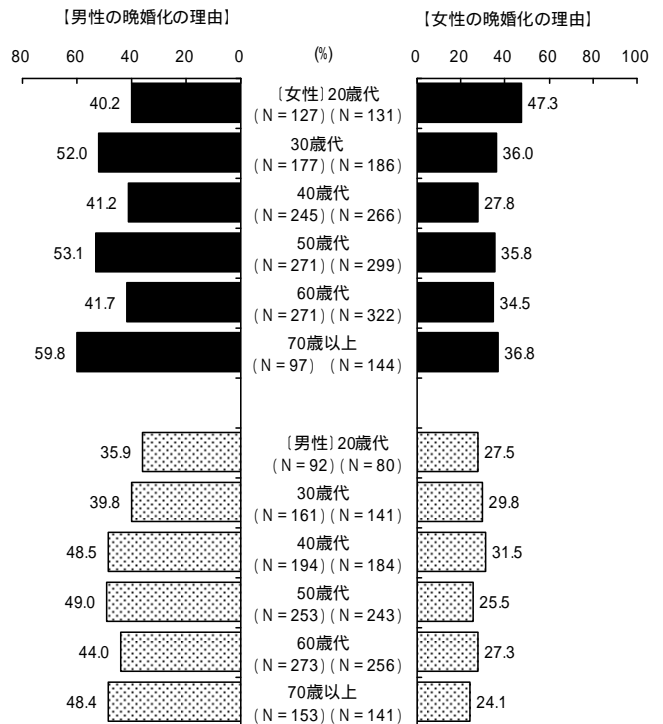
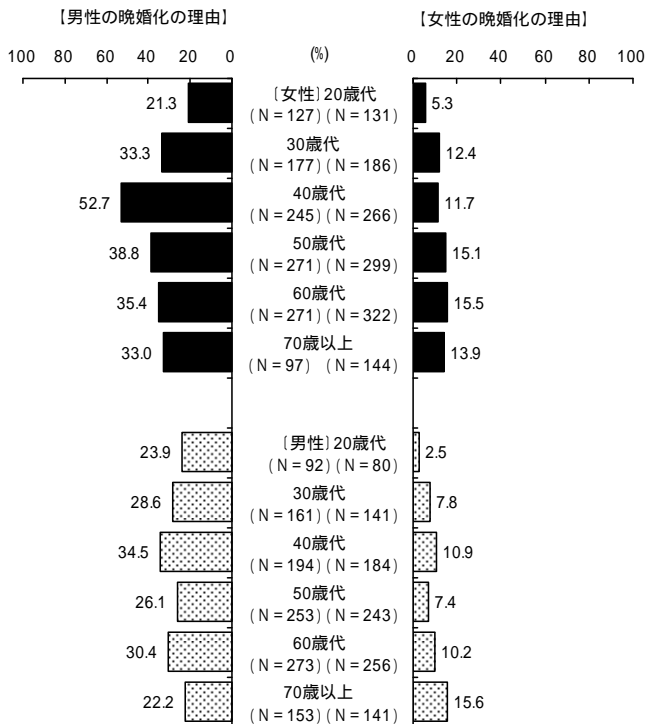
仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上した

家事、育児に対する負担感、拘束感が大きい



親離れができていない

結婚を望んでも自分にふさわしい相手に恵まれない



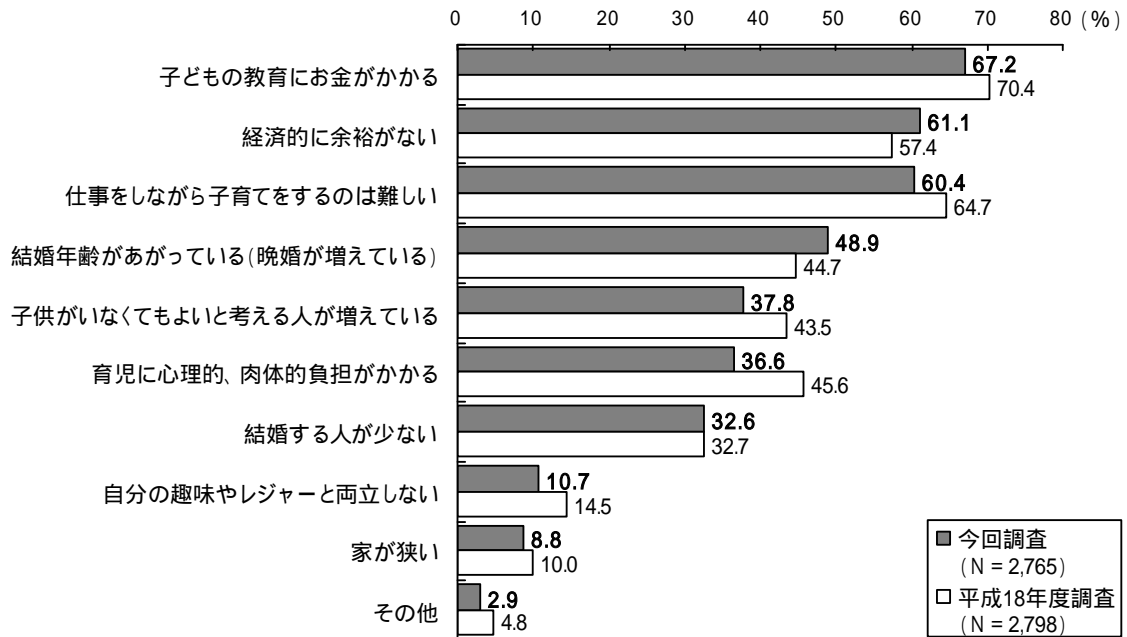
3

出生数減少の理由

(あてはまるものをすべて選択)

「子どもの教育にお金がかかる」が6割以上

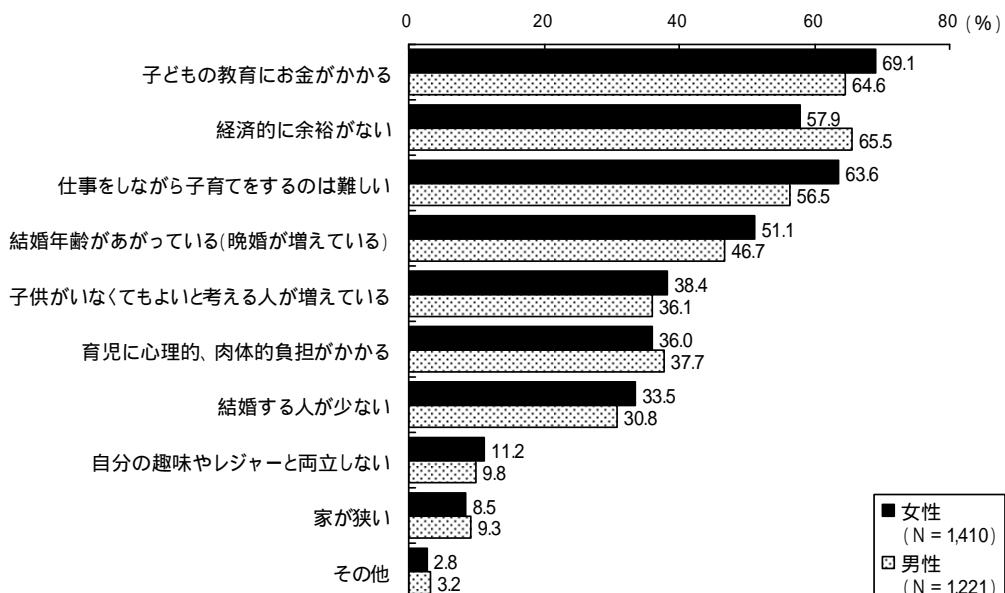
出生数減少の理由についてみると、「子どもの教育にお金がかかる」が67.2%で最も多く、次いで「経済的に余裕がない」(61.1%)、「仕事をしながら子育てをするのは難しい」(60.4%)の順となっている。



【性別】

「子どもの教育にお金がかかる」が男女とも最も多い

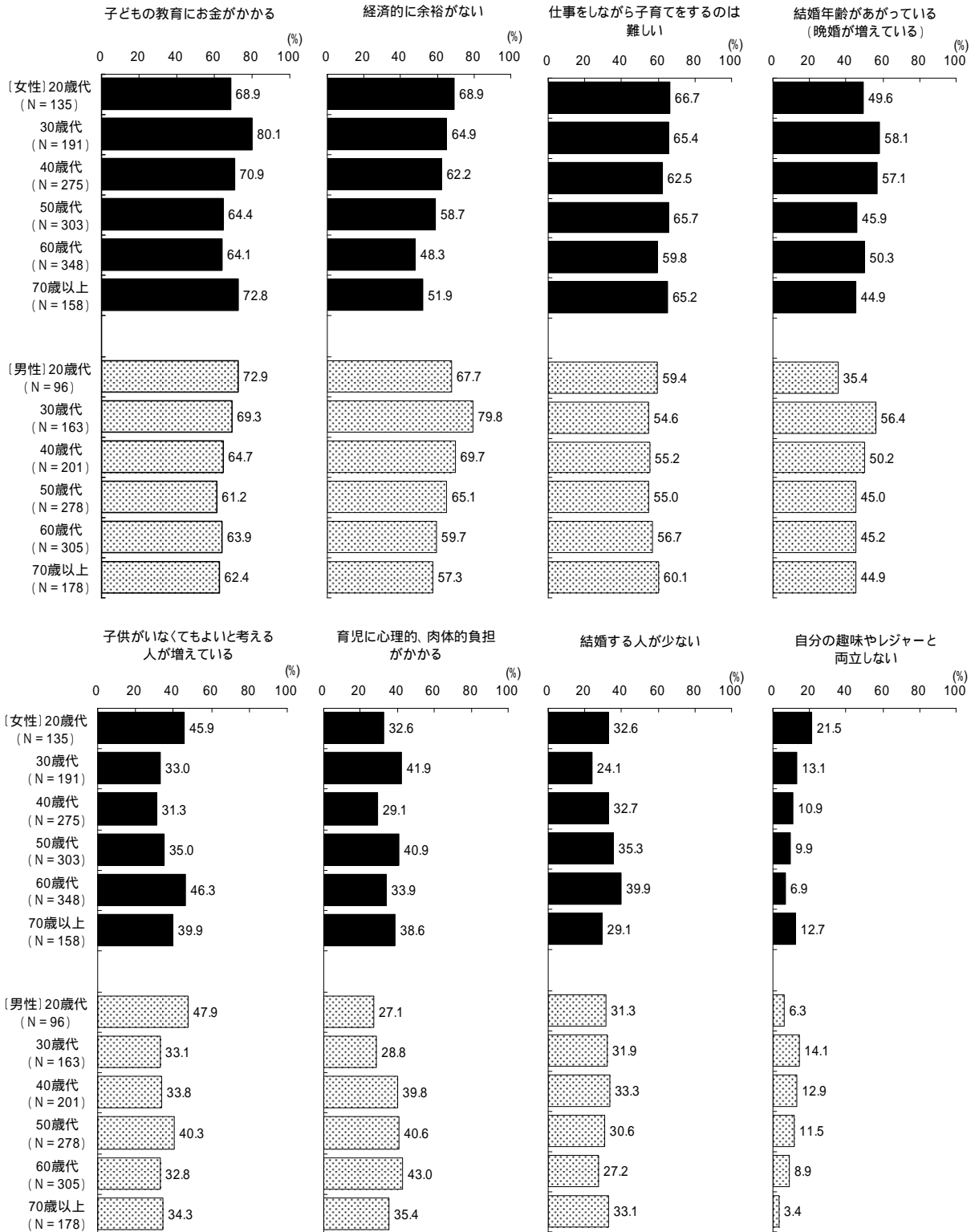
男女とも「子どもの教育にお金がかかる」が最も多く、次いで、女性では「仕事をしながら子育てをするのは難しい」、男性では「経済的に余裕がない」が続いている。

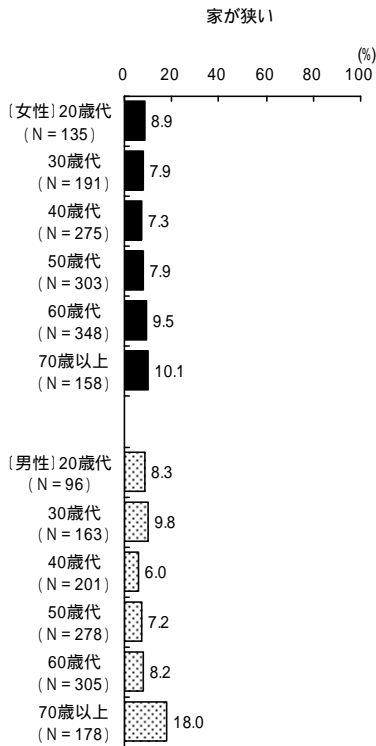


【性・年代別】

30歳代男女に経済的な負担感が高い

「子どもの教育にお金がかかる」では、30歳代女性が80.1%、「経済的に余裕がない」では、30歳代男性が79.8%と割合が高くなっている。また、「仕事をしながら子育てをするのは難しい」がすべての性別年代別で5割を超えている。





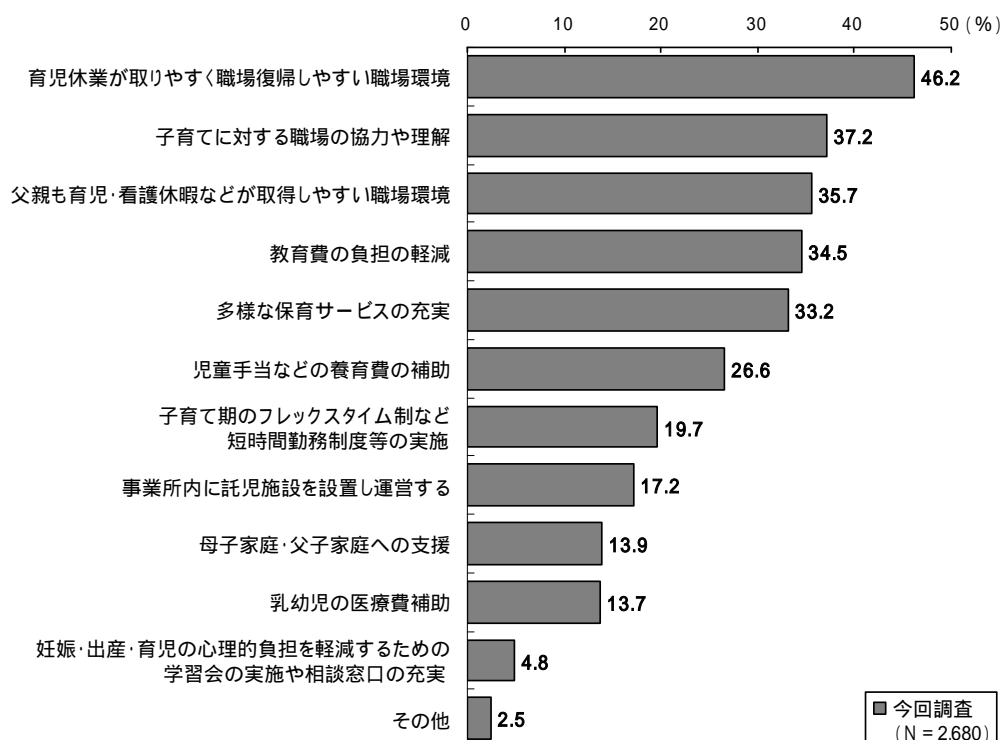
4

安心して子どもを産み育てるために必要なこと

(あてはまるものを3つまで選択)

「育児休業が取りやすく職場復帰しやすい職場環境」が最も多い

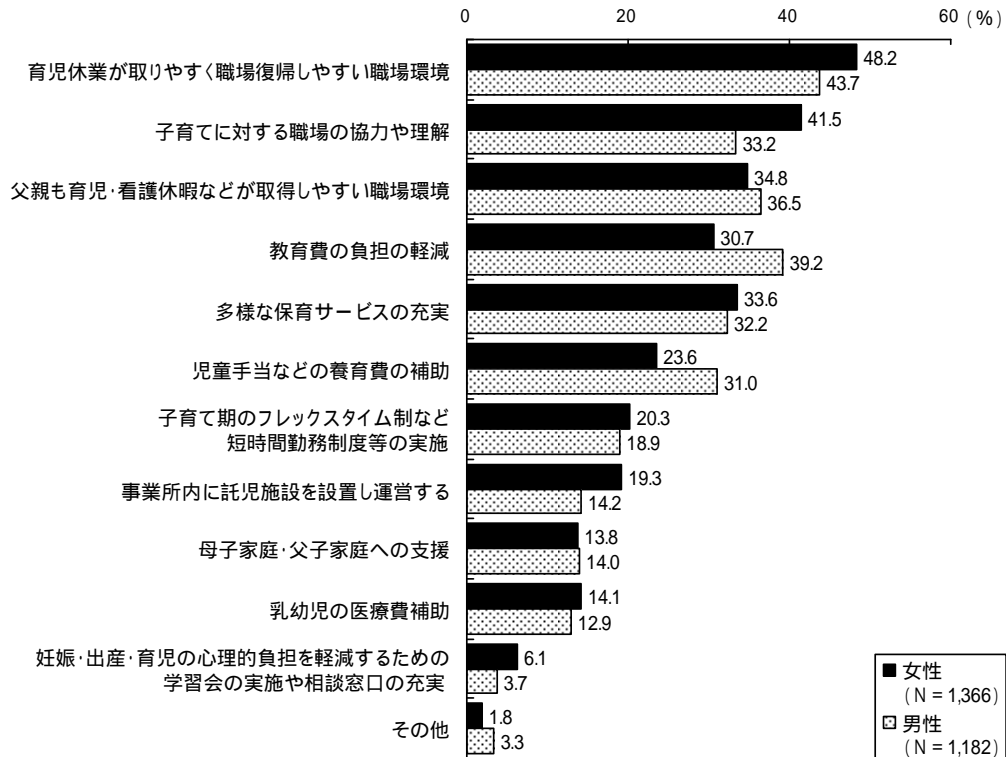
安心して子どもを産み育てるために必要なことは、「育児休業が取りやすく職場復帰しやすい職場環境」が46.2%で最も多く、次いで「子育てに対する職場の協力や理解」(37.2%)、「父親も育児・看護休暇などが取得しやすい職場環境」(35.7%)の順となっている。



【性別】

「育児休業が取りやすく職場復帰しやすい職場環境」が男女とも最も多い

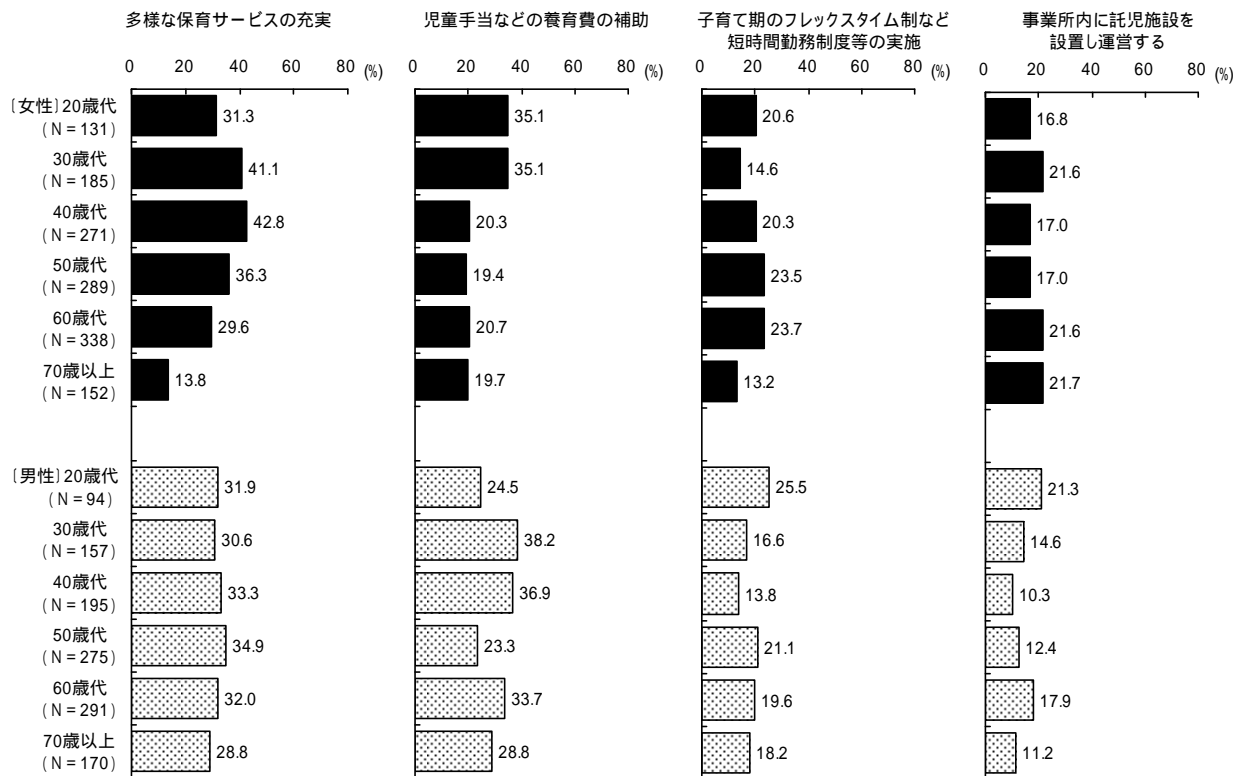
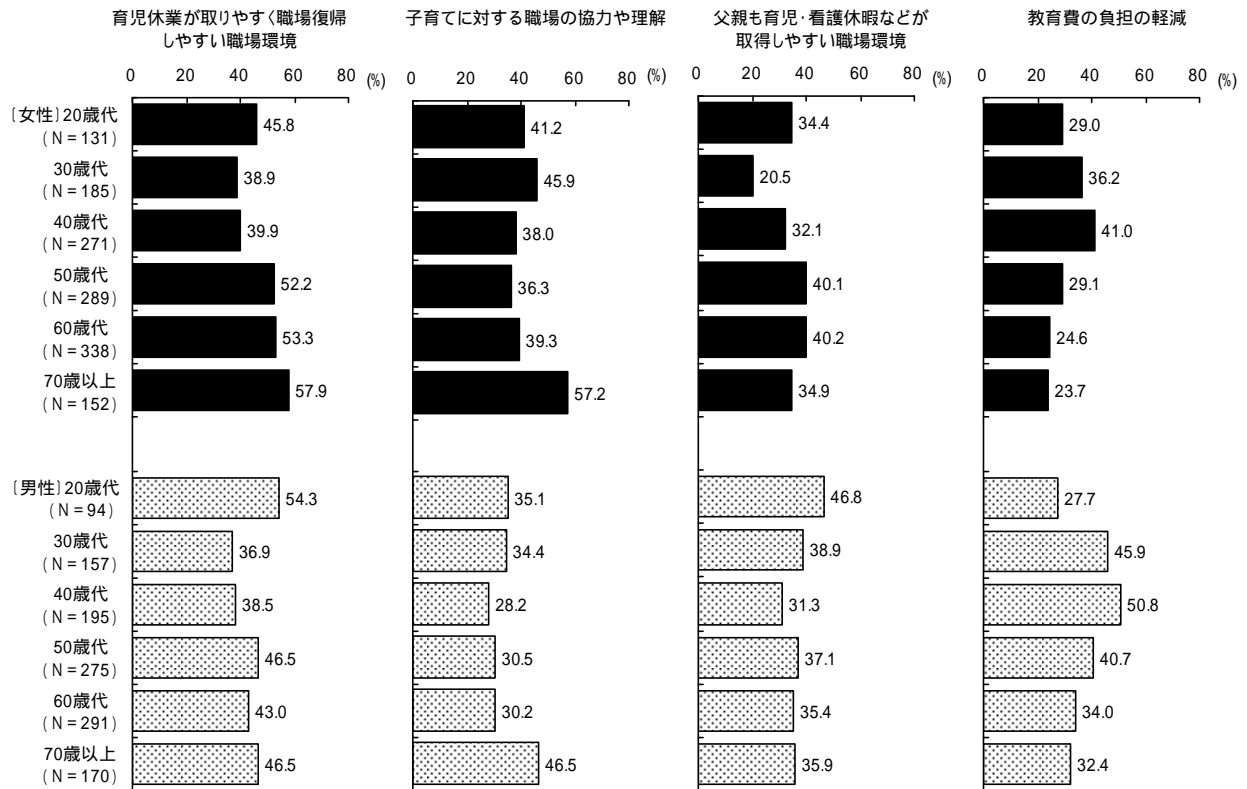
安心して子どもを産み育てるために必要なことは、男女とも「育児休業が取りやすく職場復帰しやすい職場環境」が最も多く、次いで女性では、「子育てに対する職場の協力や理解」が多く、男性では、「教育費の負担の軽減」が多い。

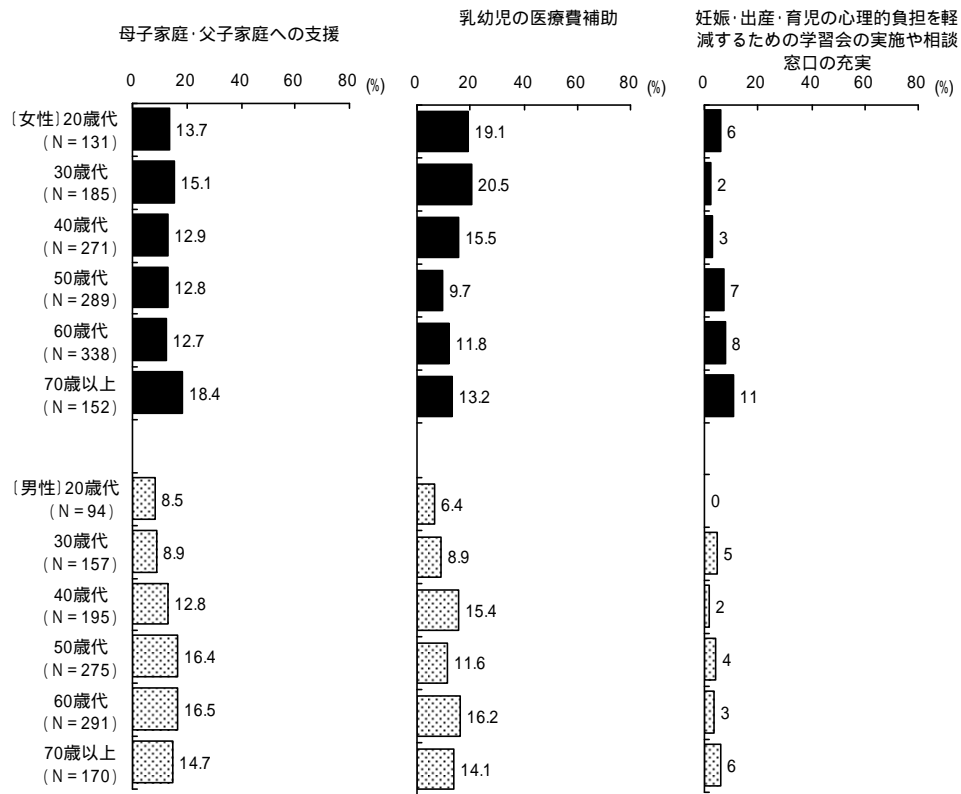


【性・年代別】

女性の30～40歳代は「多様な保育サービスの充実」、男性の30～40歳代は「教育費の負担の軽減」が高い

「父親も育児・看護休暇などが取得しやすい職場環境」は、男性の20～30歳代で女性より高くなっており、「多様な保育サービスの充実」は、女性の30～40歳代で高くなっている。「教育費の負担の軽減」は男性の30～40歳代で高くなっている。



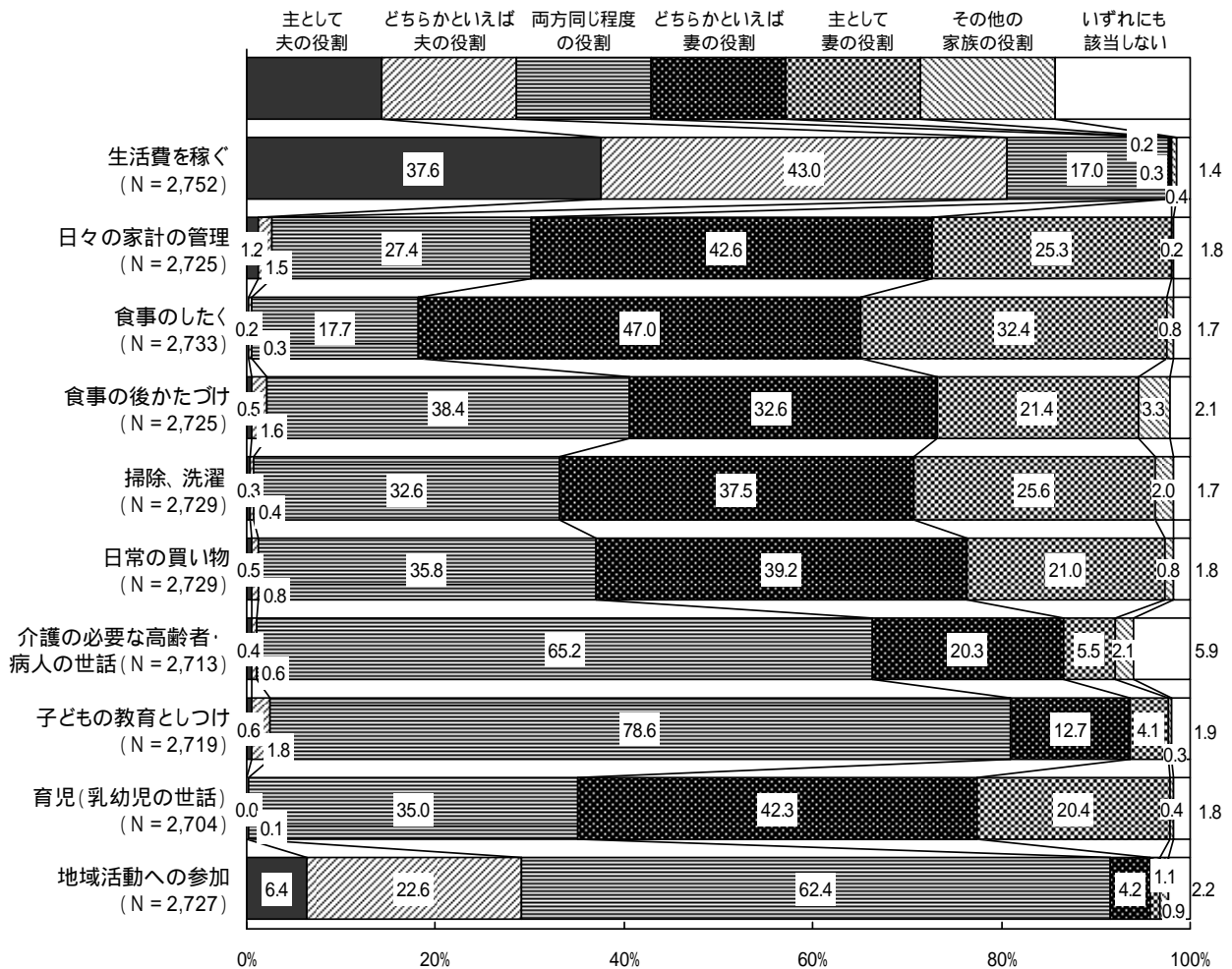


4. 家庭生活

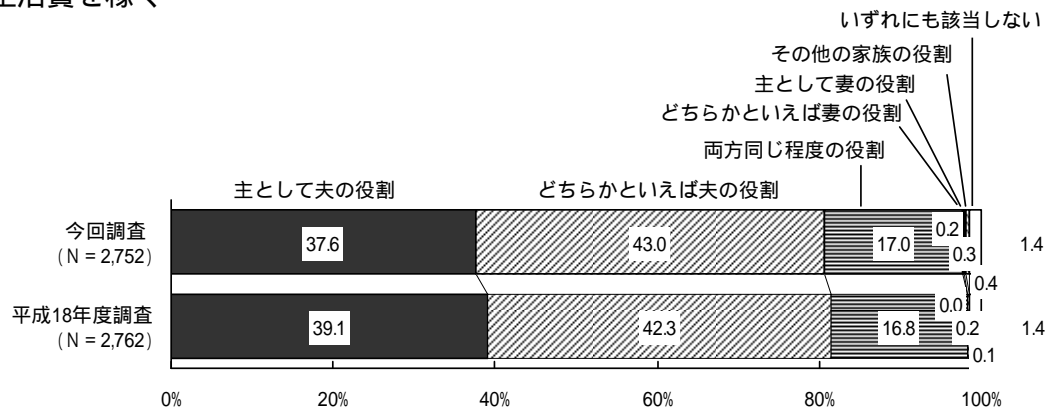
1 家庭の仕事の役割

「子どもの教育としつけ」、「介護の必要な高齢者・病人の世話」、「地域活動への参加」は夫・妻両方の役割

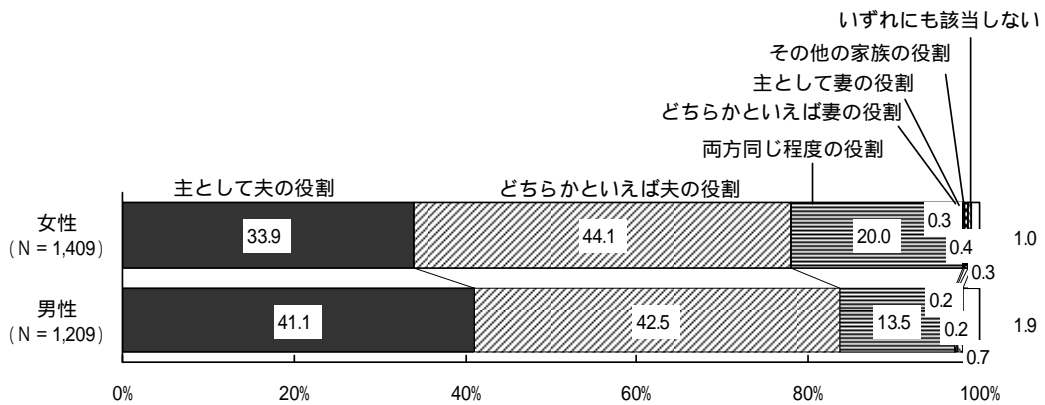
『夫の役割』（「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」の合計）として考えられていることは、「生活費を稼ぐ」で、8割を占める。一方『妻の役割』（「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の合計）として考えられているのは、「食事のしたく」、「日々の家計の管理」、「掃除、洗濯」、「育児（乳幼児の世話）」、「日常の買い物」の順でそれぞれ6割以上となっている。「子どもの教育としつけ」、「介護の必要な高齢者・病人の世話」、「地域活動への参加」は「両方同じ程度の役割」が高くなっている。



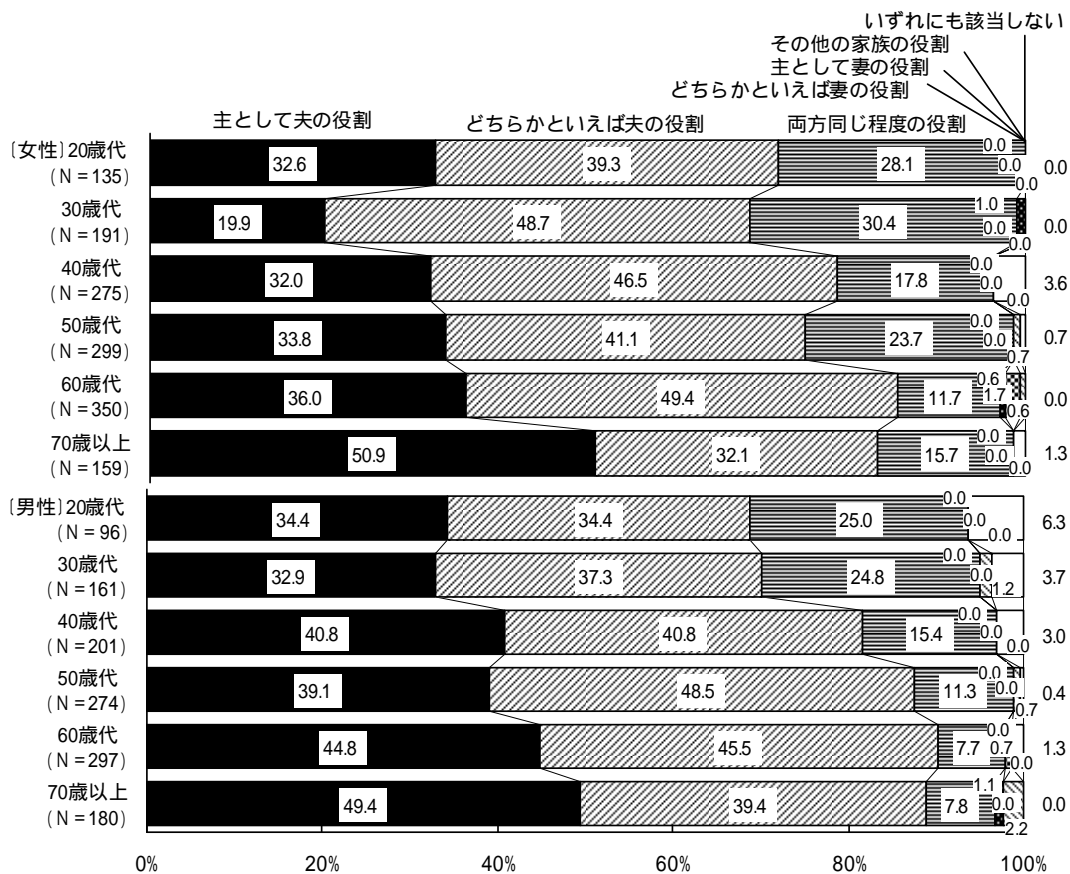
(1) 生活費を稼ぐ



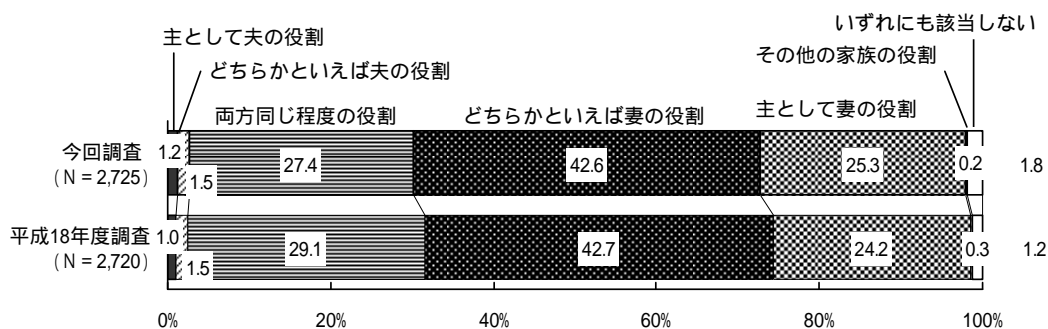
【性別】



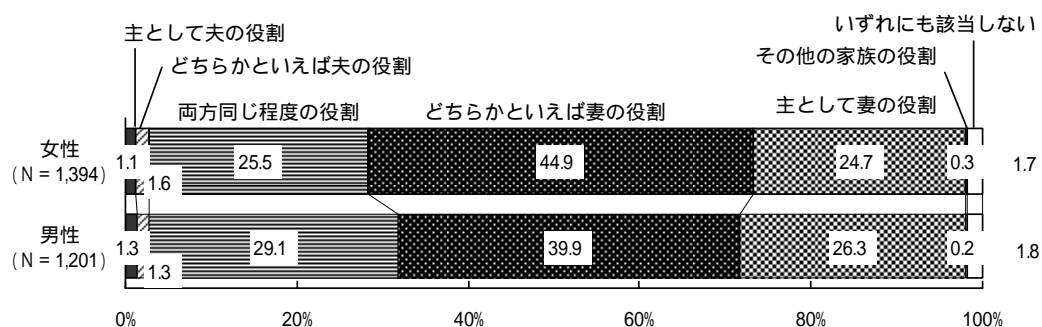
【性・年代別】



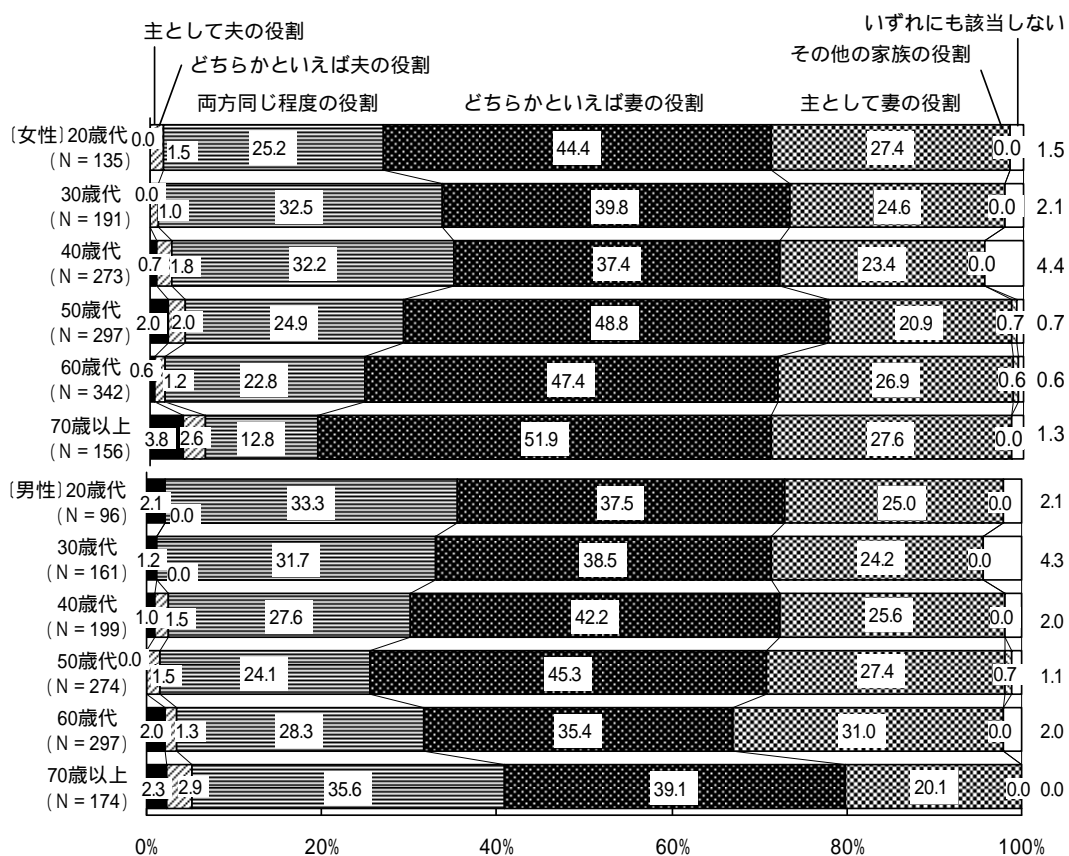
(2) 日々の家計の管理



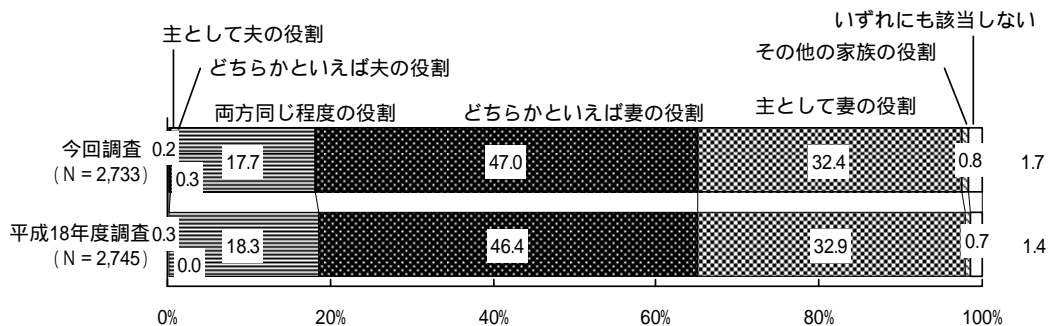
【性別】



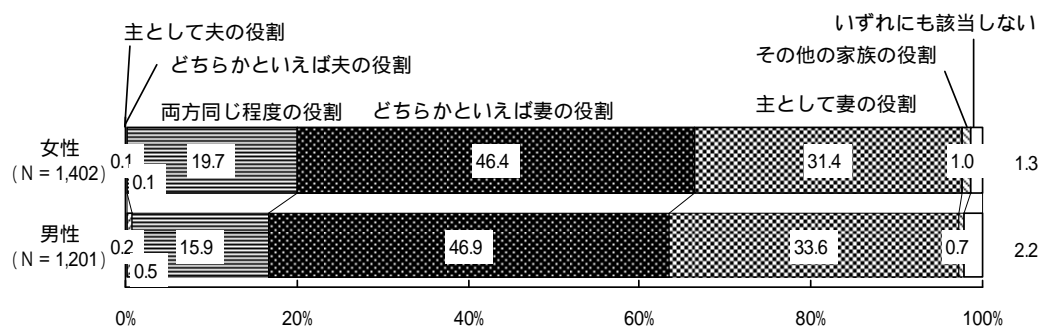
【性・年代別】



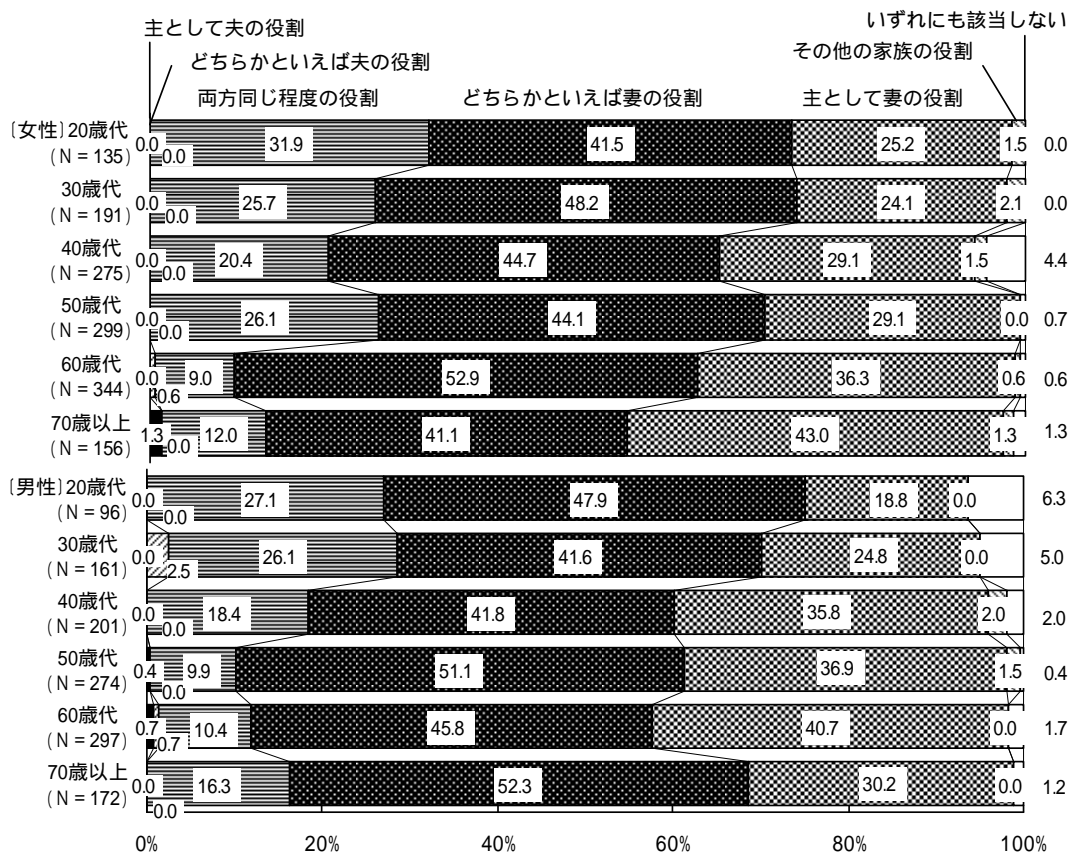
(3) 食事のしたく



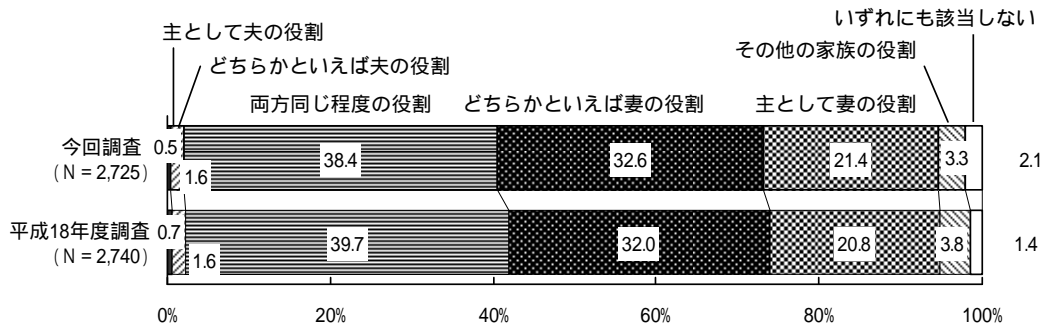
【性別】



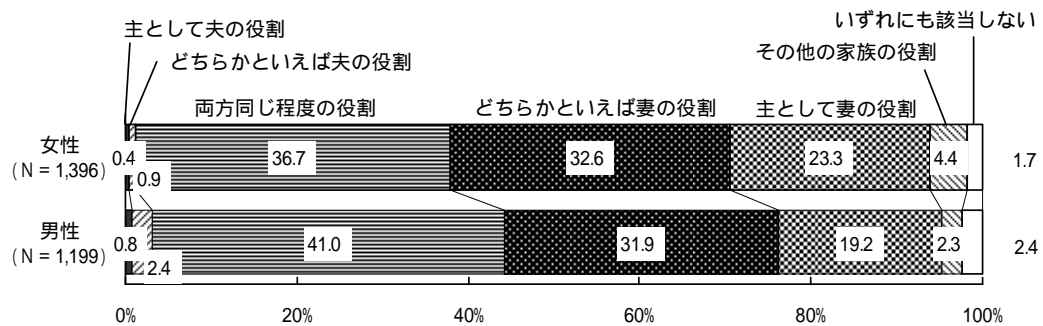
【性・年代別】



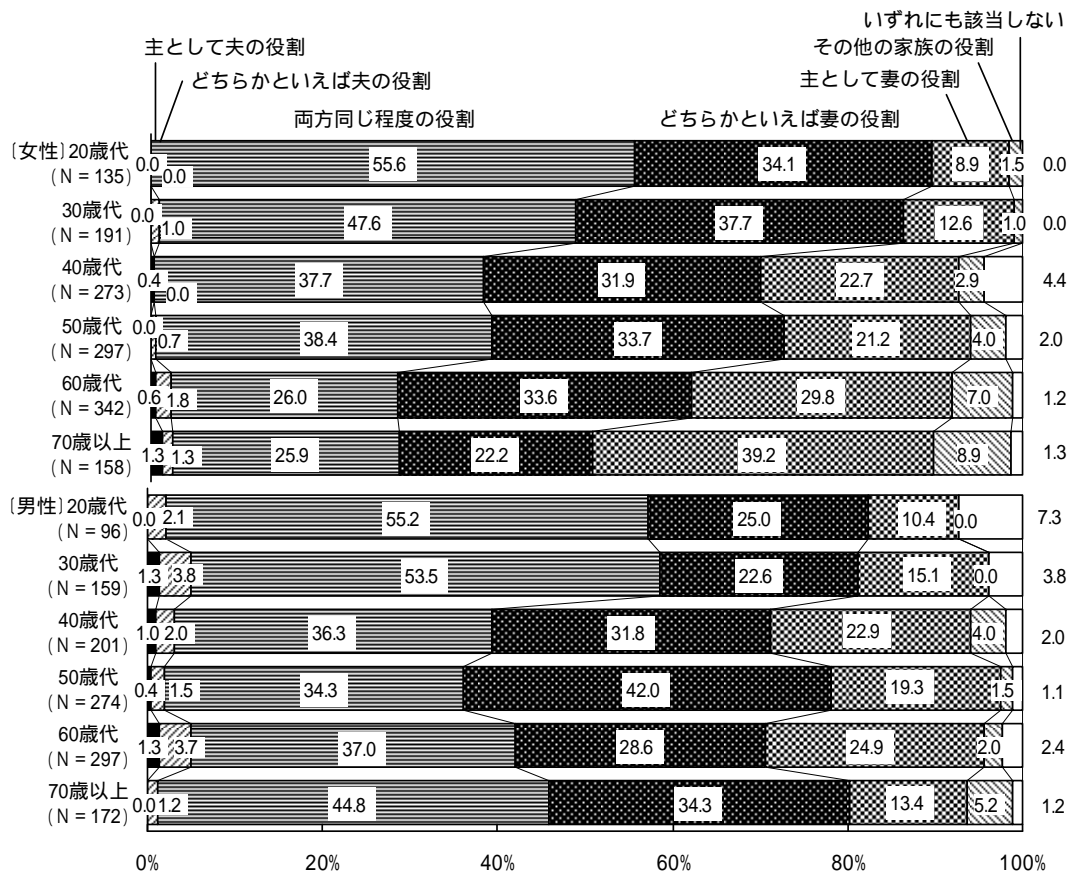
(4) 食事の後かたづけ



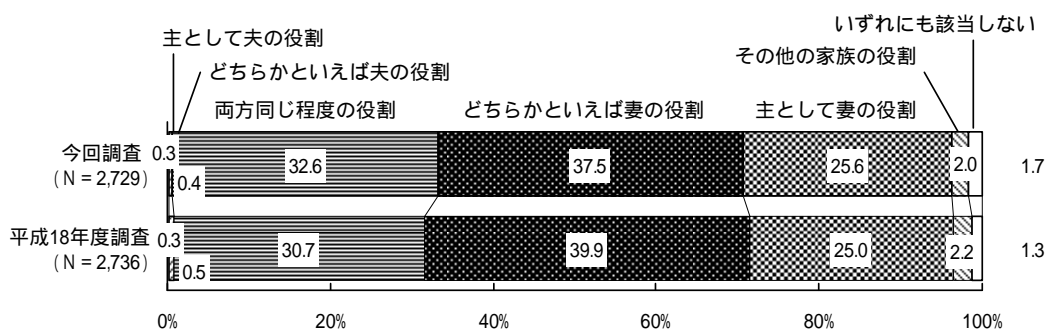
【性別】



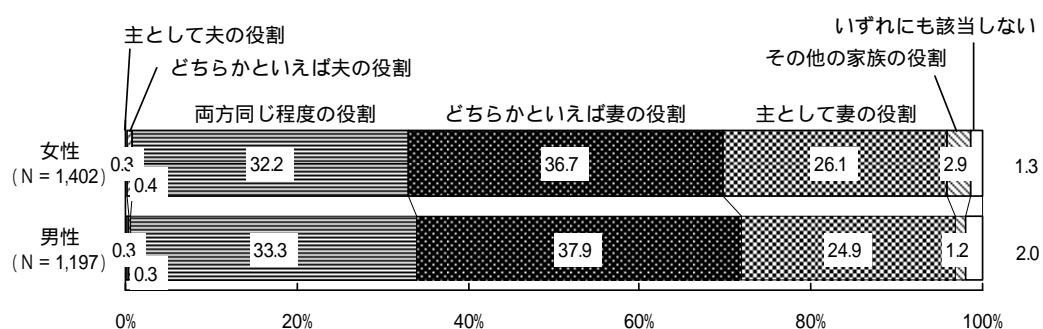
【性・年代別】



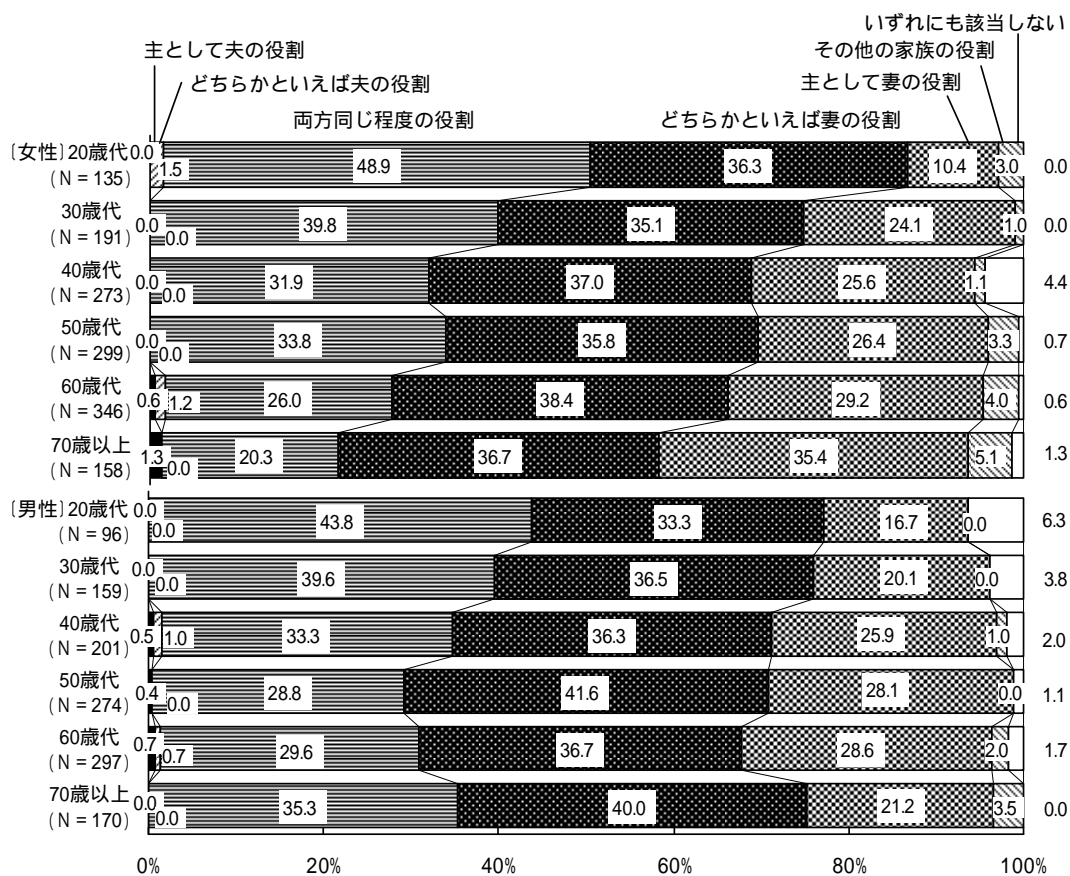
(5) 掃除、洗濯



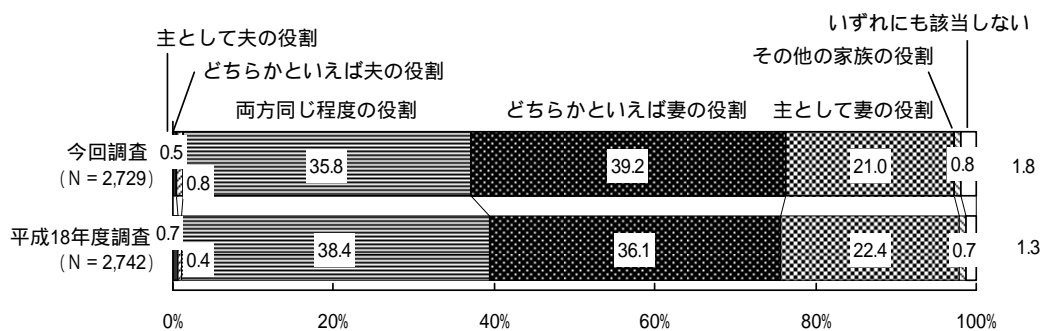
【性別】



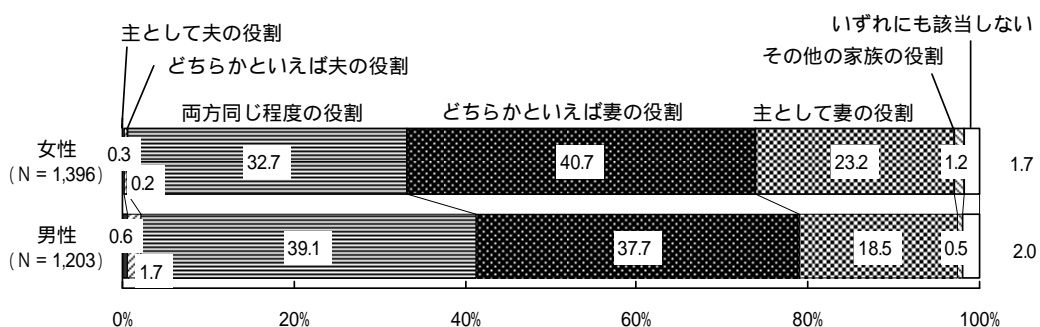
【性・年代別】



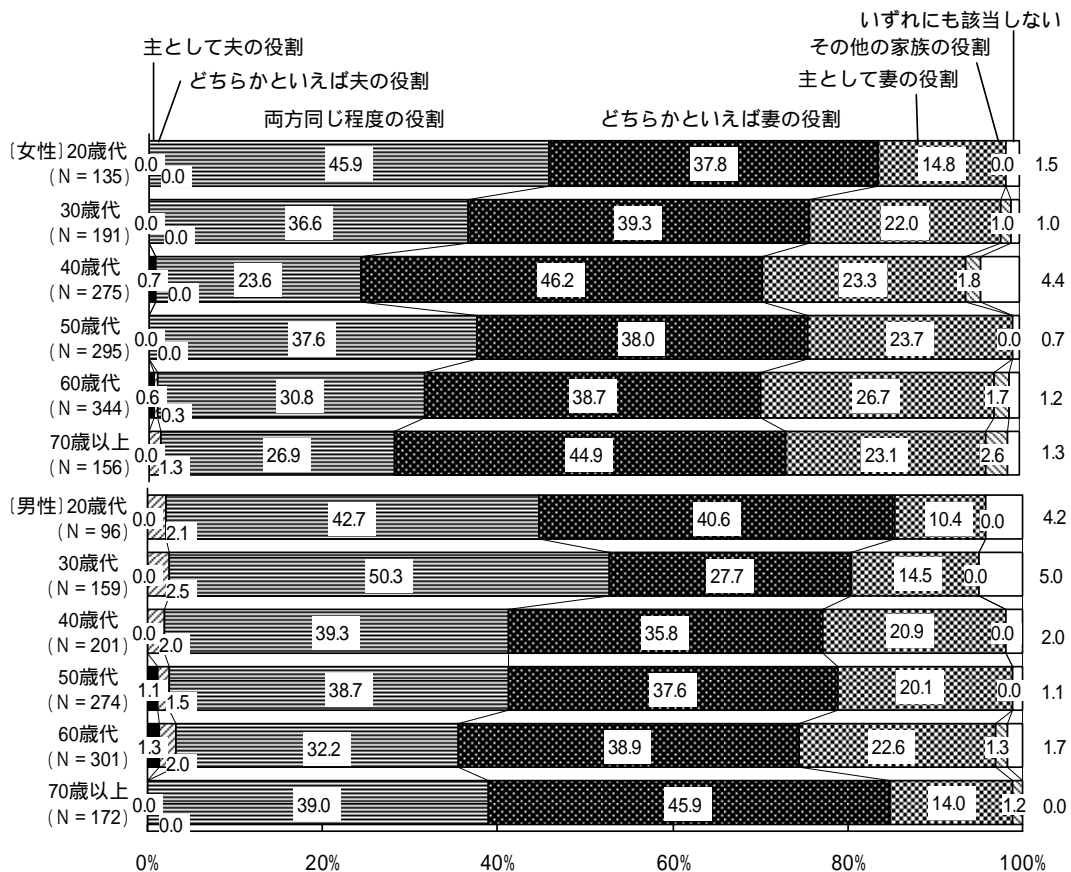
(6) 日常の買い物



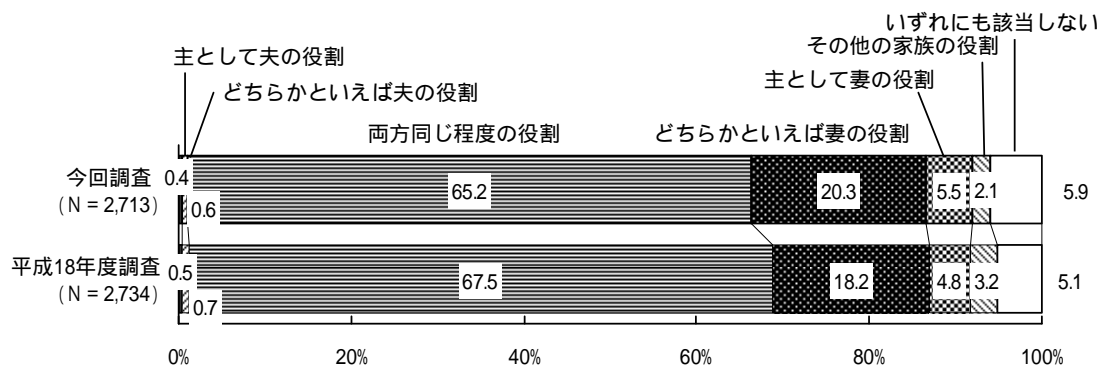
【性別】



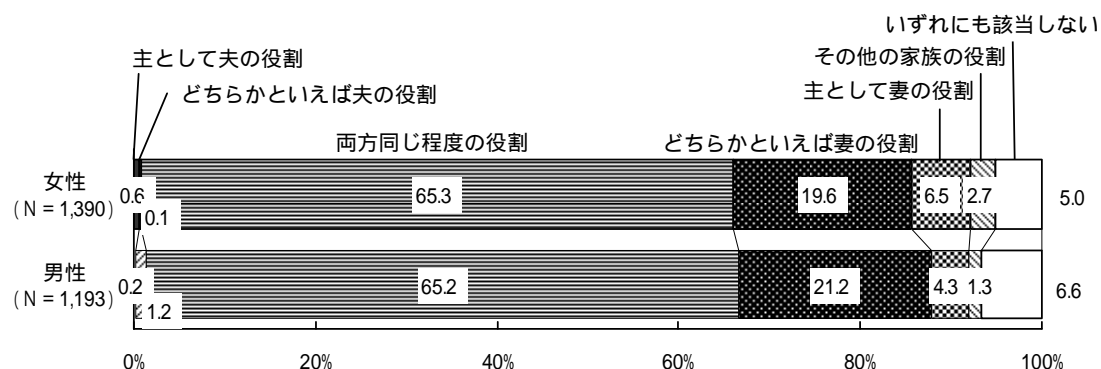
【性・年代別】



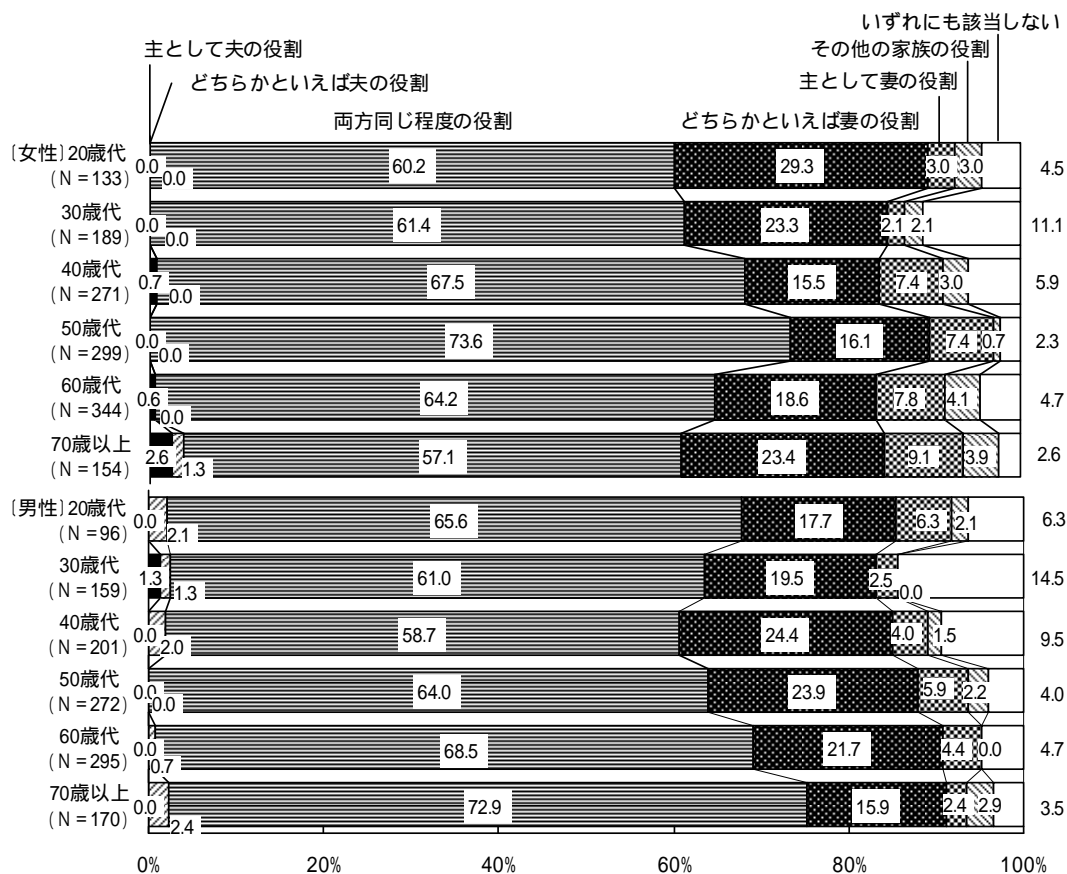
(7) 介護の必要な高齢者・病人の世話



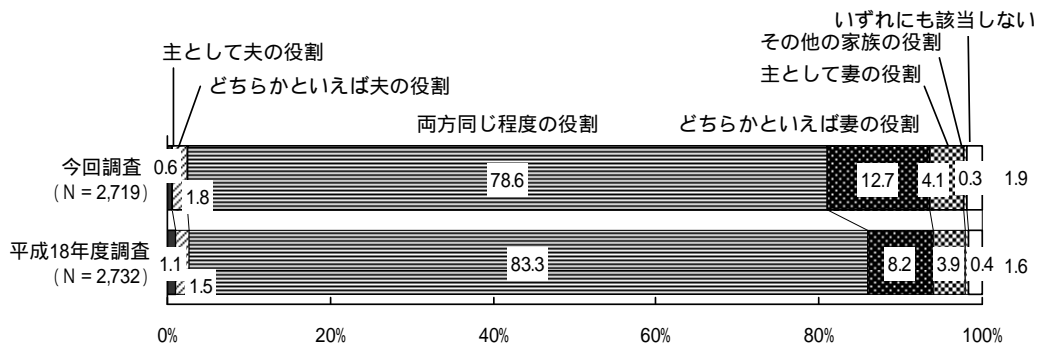
【性別】



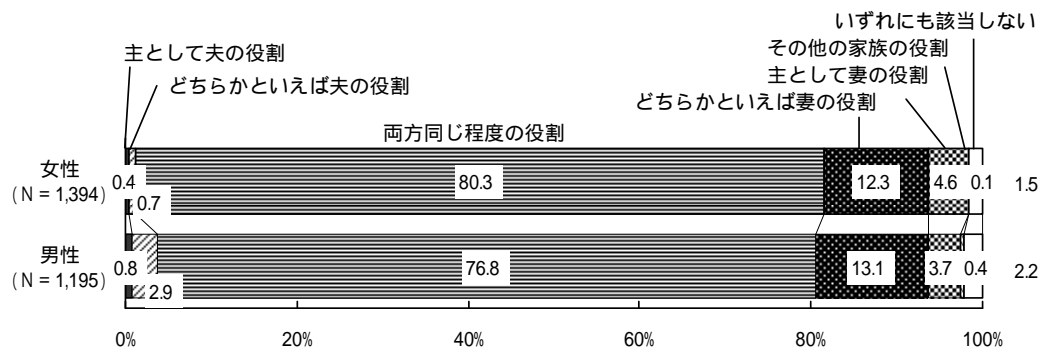
【性・年代別】



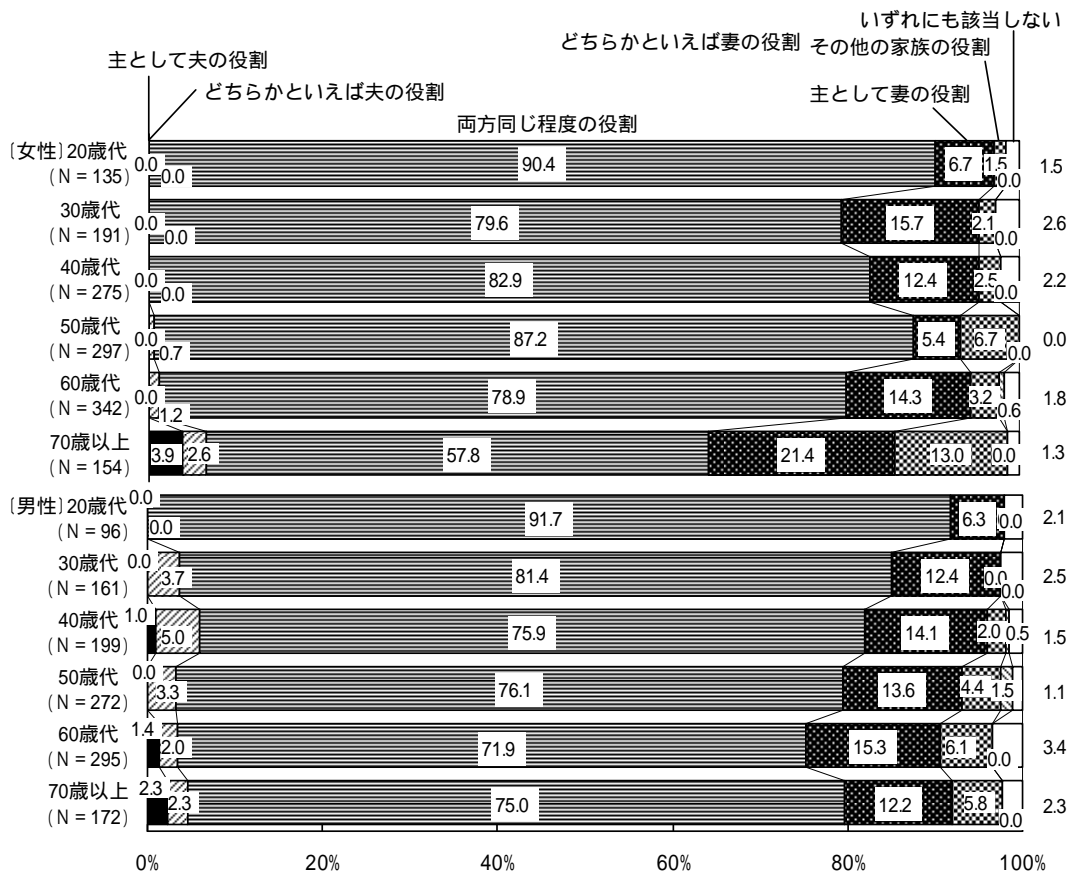
(8) 子どもの教育とつけ



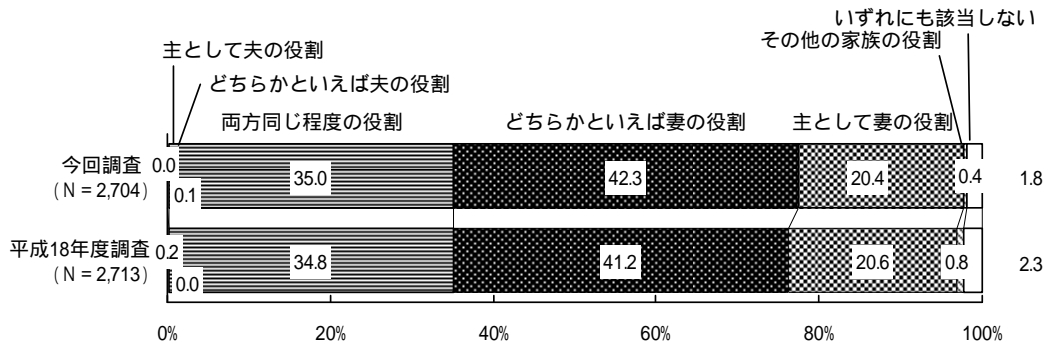
【性別】



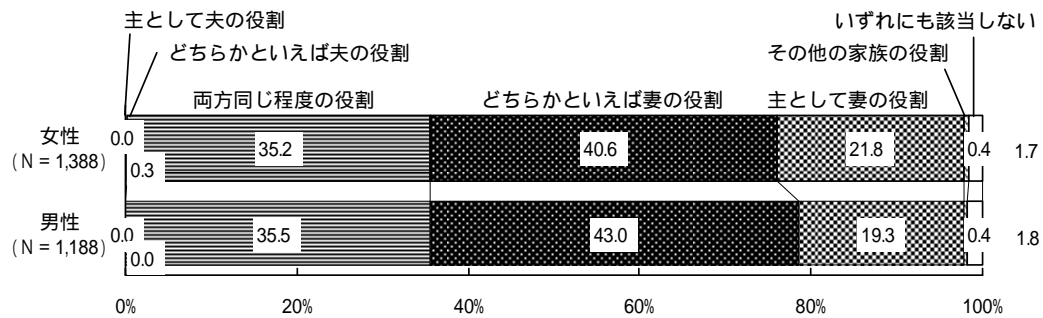
【性・年代別】



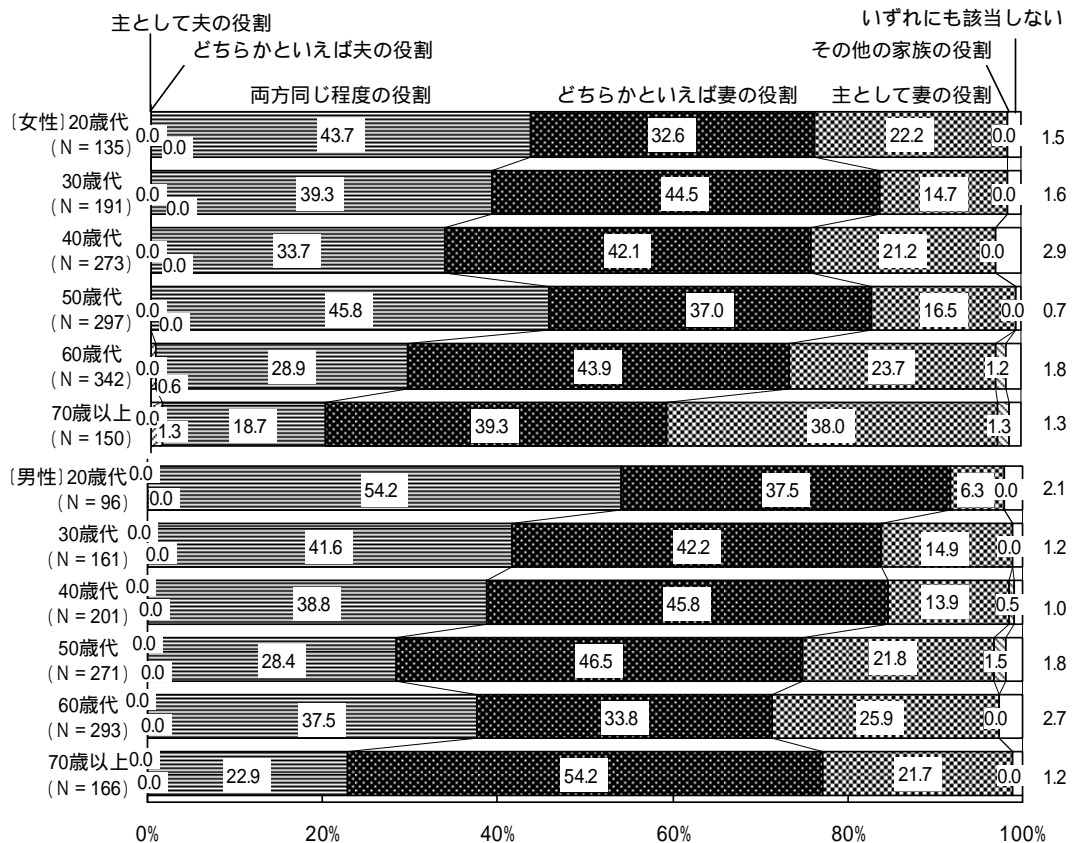
(9) 育児（乳幼児の世話）



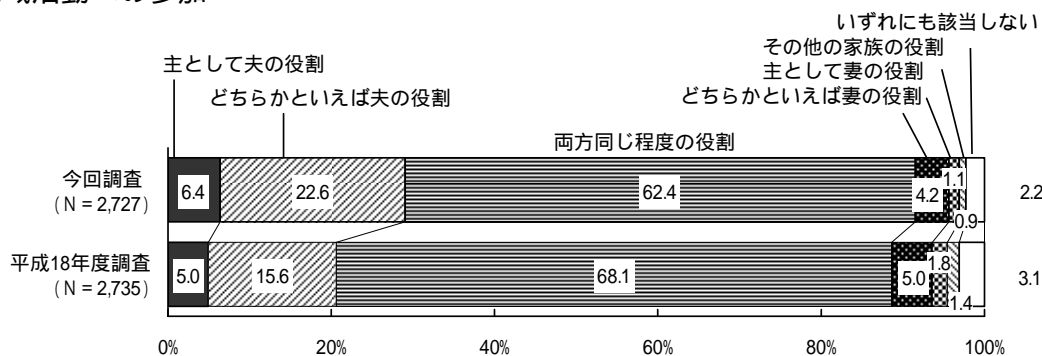
【性別】



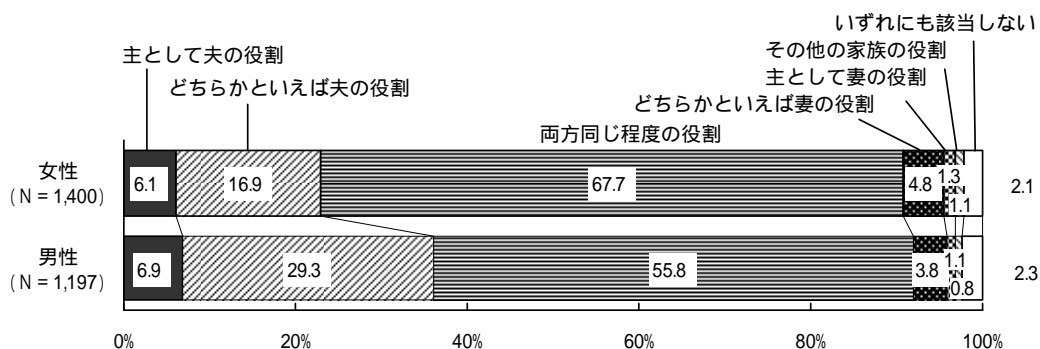
【性・年代別】



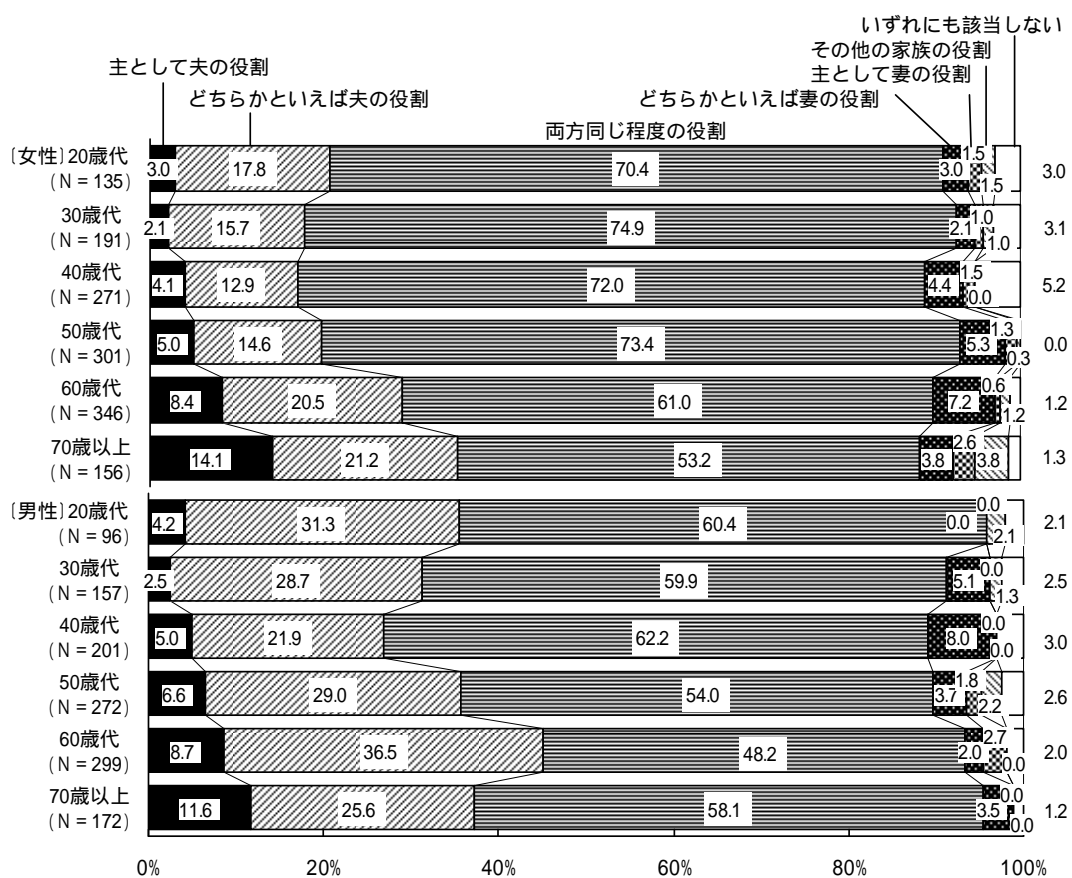
(10) 地域活動への参加



【性別】



【性・年代別】



5. 男性の参画

1

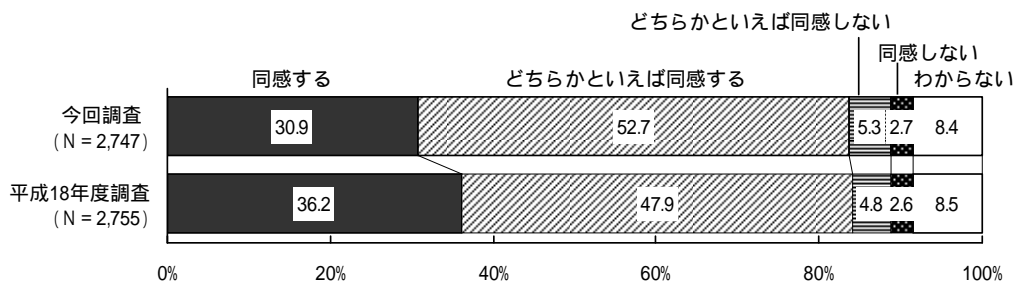
男性の地域社会や家庭生活における活動への参画

(あてはまるものを3つまで選択)

(1) 「男性はもっと地域社会の活動に参画する必要がある」という考え方

『同感する』が8割以上

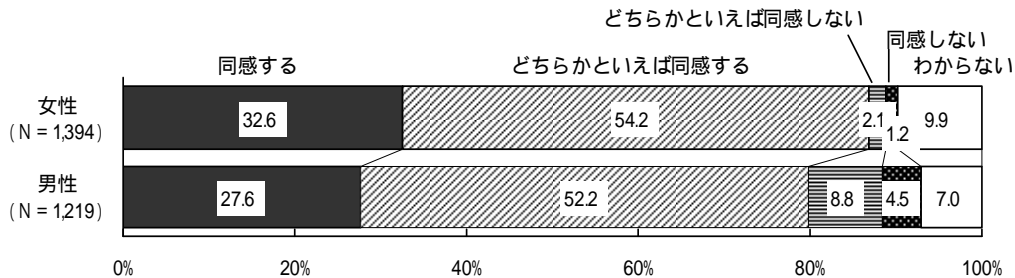
「男性はもっと地域社会の活動に参画する必要がある」という考え方についてみると、『同感する』（「同感する」と「どちらかといえば同感する」の合計）は、83.6%で、平成18年度調査と比較して、0.5ポイント低下している。



【性別】

女性の方が『同感する』割合がやや高い

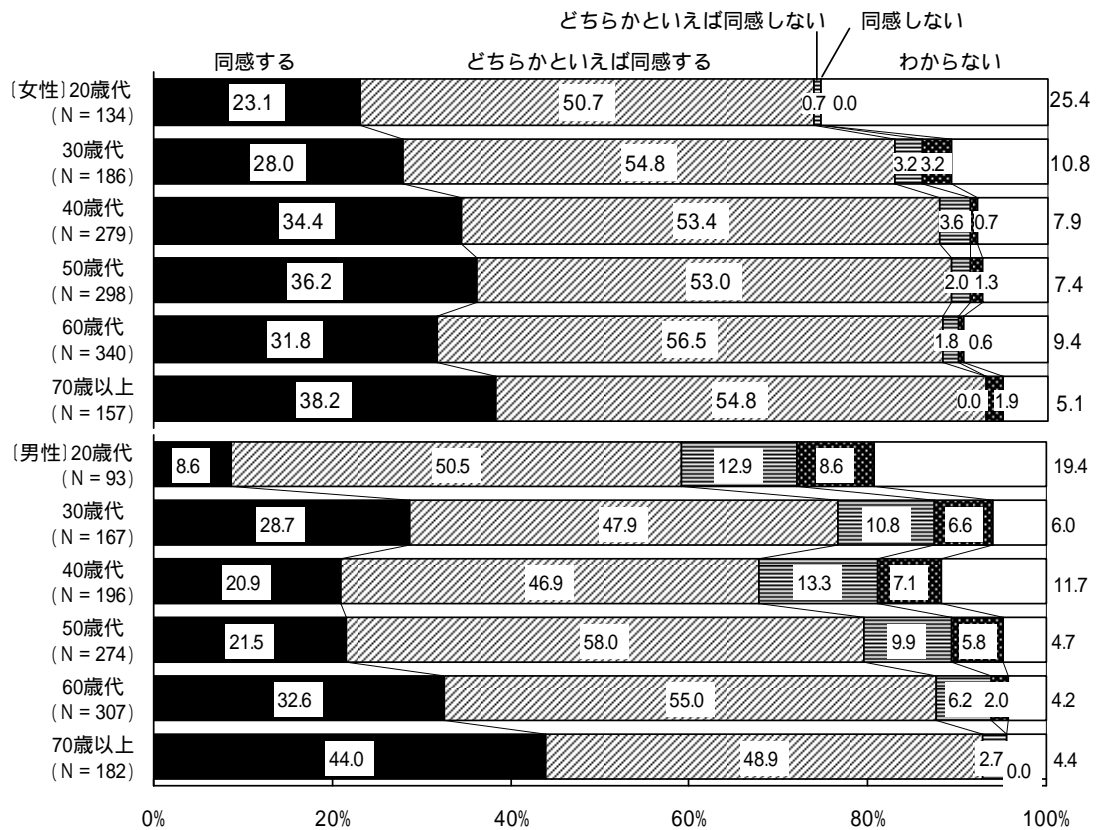
『同感する』は、女性が86.8%で、男性(79.8%)を7.0ポイント上回っている。



【性・年代別】

男女とも70歳以上で『同感する』が9割以上

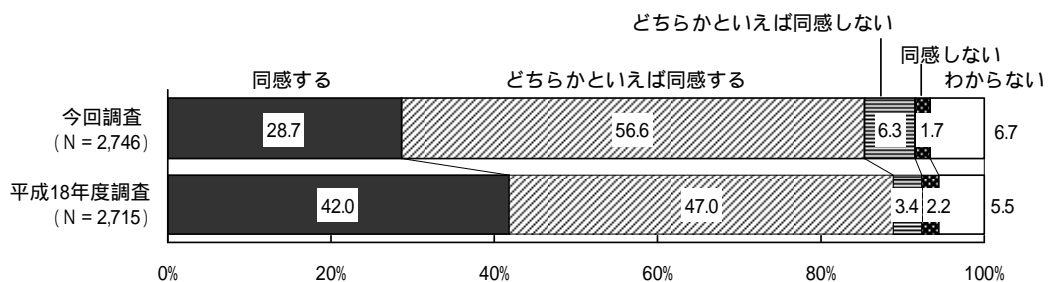
『同感する』は、いずれの年代でも女性の方が割合が高くなっている。男女とも70歳以上で最も割合が高く、9割以上となっており、男性の20歳代、40歳代で割合が低くなっている。



(2) 「男性はもっと家庭生活における活動に参画する必要がある」という考え方

『同意する』が8割以上

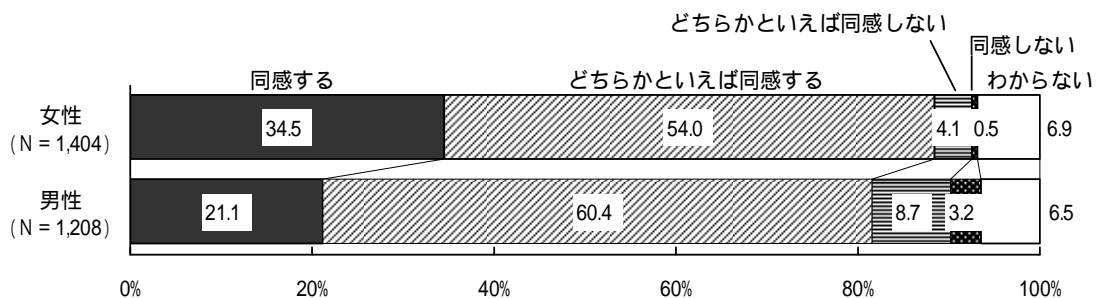
「男性はもっと家庭生活における活動に参画する必要がある」という考え方についてみると、『同意する』は85.3%で、平成18年度調査(89.0%)と比較すると、3.7ポイント低くなっている。



【性別】

女性の方が『同意する』割合がやや高い

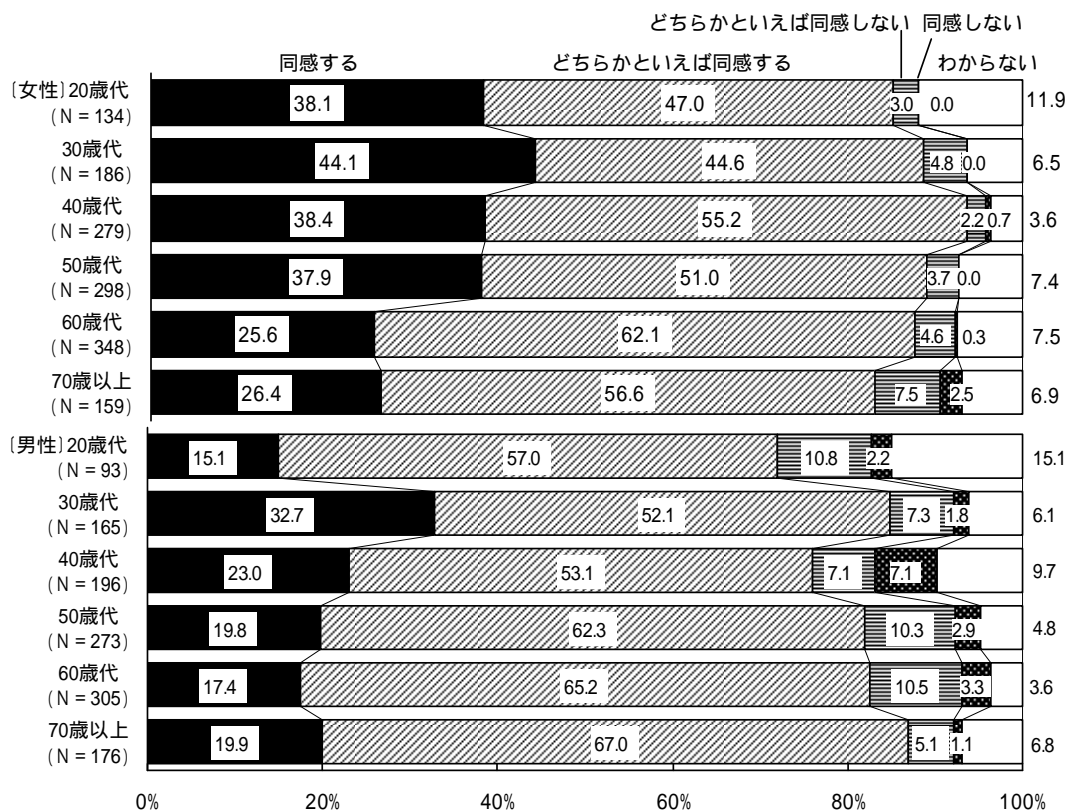
『同意する』は、女性が88.5%で、男性(81.5%)を7.0ポイント上回っている。



【性・年代別】

女性のすべての年代で『同感する』が8割を超えている

『同感する』は、女性ではすべての年代で8割を超えている。



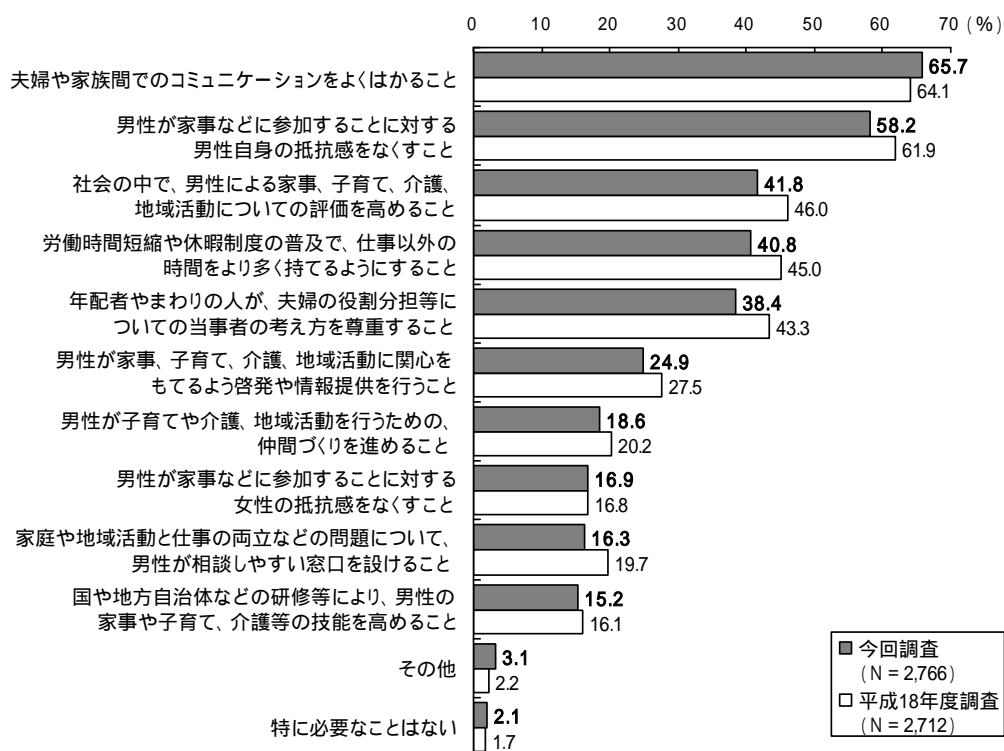
2

男性の地域や家庭における活動への積極的な参加のために必要なこと

(あてはまるものをすべて選択)

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が6割以上

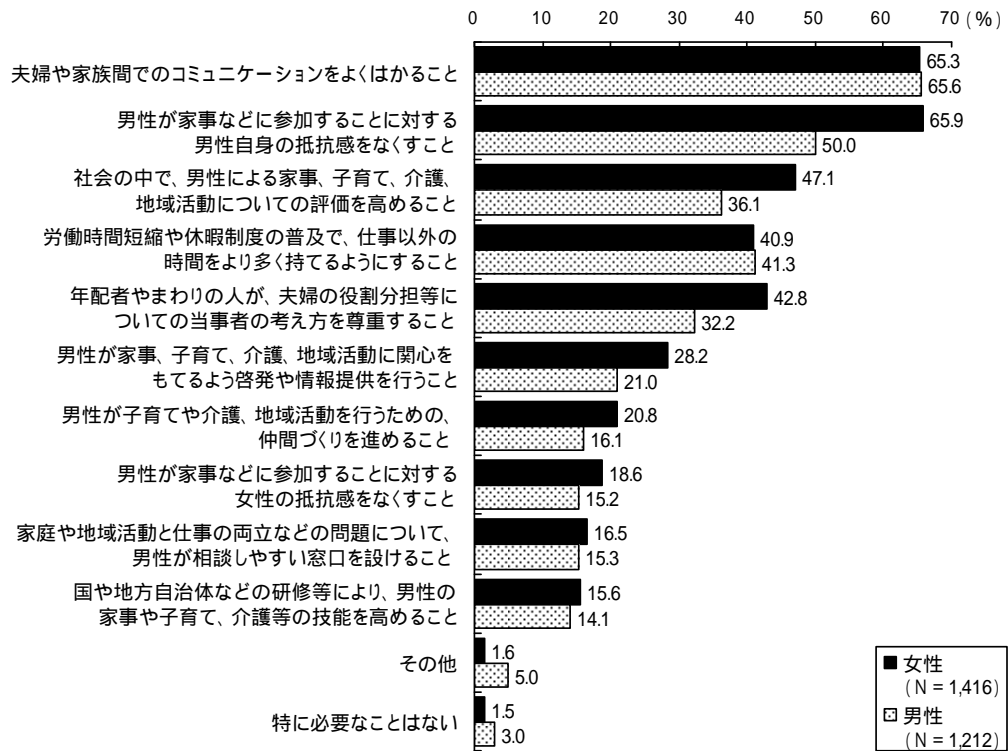
男性の地域や家庭における活動への積極的な参加のために必要なこととしては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が続いている。



【性別】

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」で男女間に意識差

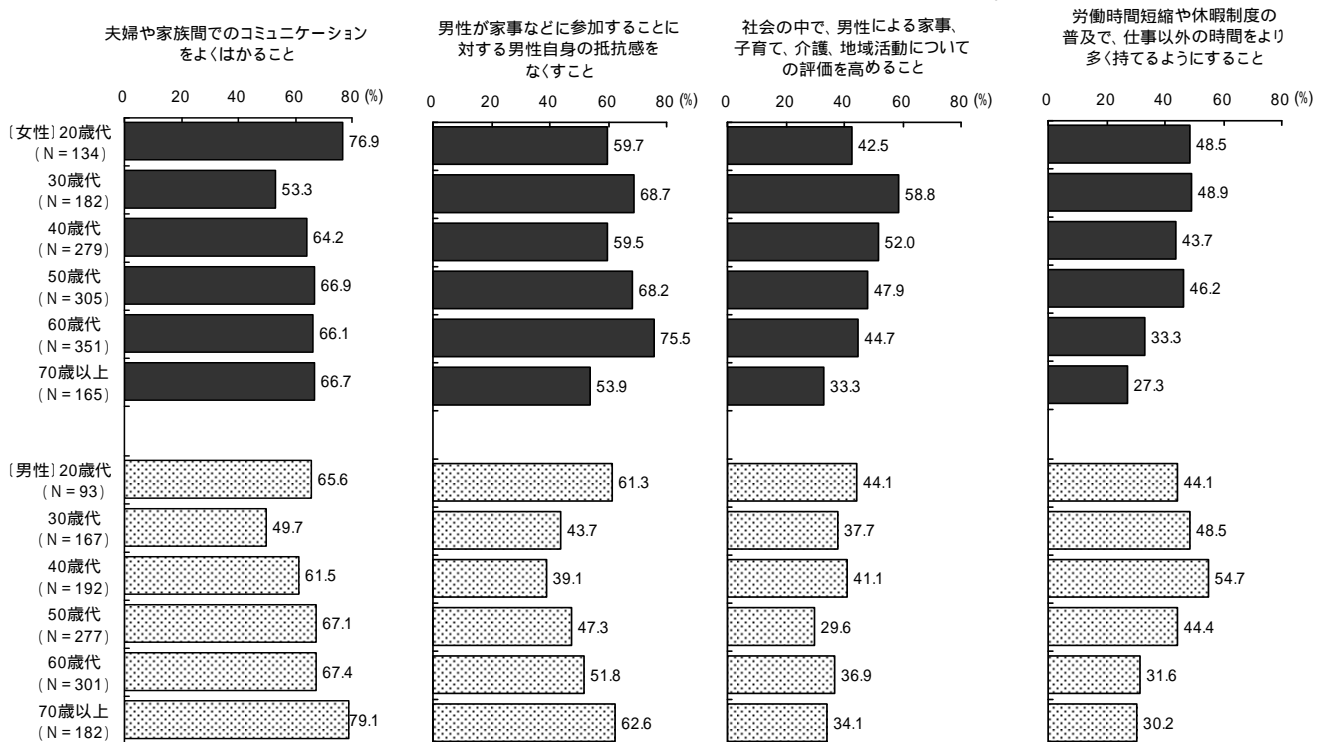
女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が、男性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も多くなっている。「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること」で、女性の方が男性より 10 ポイント以上高く、男女間に意識の差が見られる。



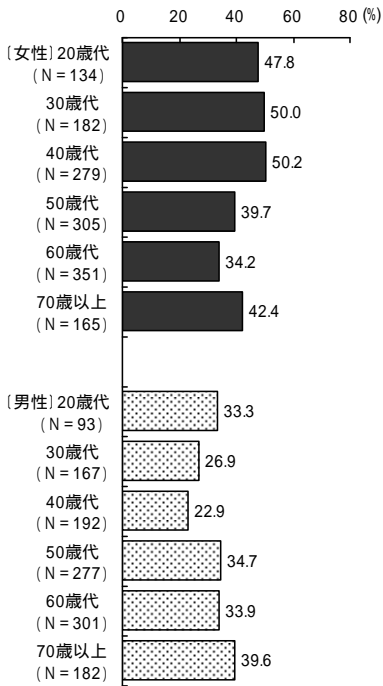
【性・年代別】

「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること」で男女間に意識差

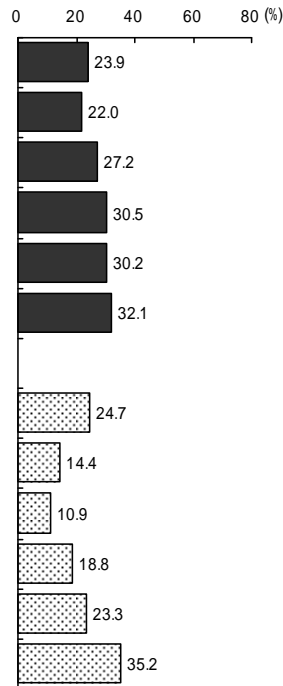
「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」については、30～60歳代で女性が男性より20ポイント程度高くなっている。また、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること」についてみると、30～50歳代で女性の方が高くなっており、男女間に意識の差がみられる。男性の40歳代では「労働時間短縮や休暇制度の普及で、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が高くなっている。



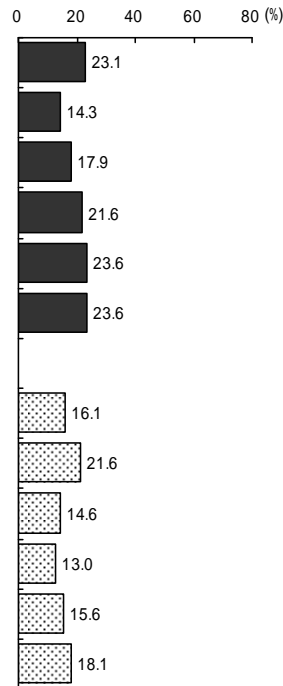
年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること



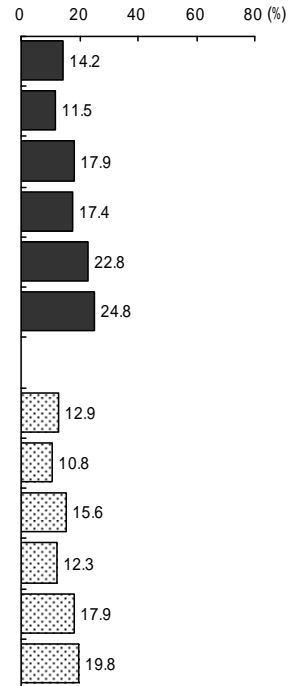
男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心をもてるよう啓発や情報提供を行うこと



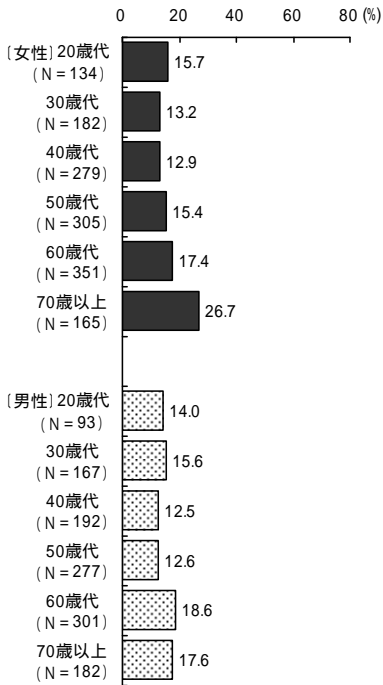
男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間づくりを進めること



男性が家事などに参加することに對する女性の抵抗感をなくすこと



家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること



国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること

